

第9章 住宅・生活環境

明治大学助教授 園田眞理子

I 居住する住宅の種類 (Q33)

1 5カ国別の特徴

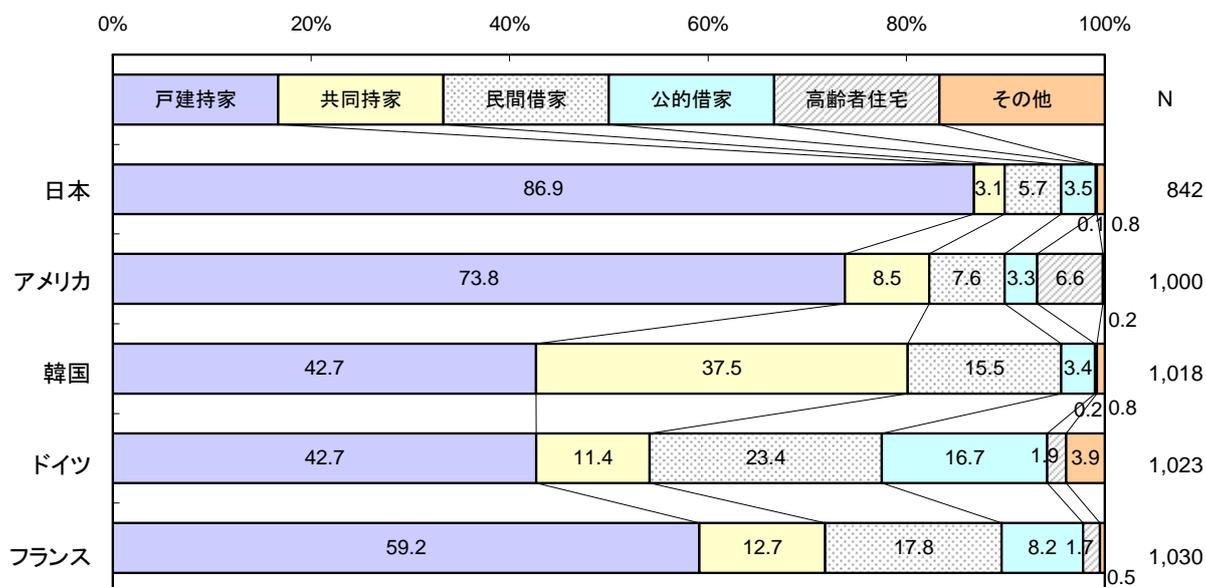
高齢者の居住する住宅の種類についてみると、国による違いが顕著にある。日本の高齢者の戸建持家率の高さが際立って高いことが目立つ。(図9-1)

日本の場合は、86.9%が戸建持家に居住している。共同建持ち家に居住するものは3.1%、借家に居住するものは、民間借家5.7%、公的借家3.0%にしかすぎない。日本のこの傾向に最も近いのはアメリカであるが、73.8%が戸建持家、8.5%が共同建持ち家に居住している。日本と異なるのは、高齢者住宅に居住しているものが6.6%いることである。

韓国は、持家居住が多いことは、日本、アメリカに類似している。しかし、戸建持家42.7%、共同建持ち家が37.5%と、いわゆるマンション居住が多いことが特徴的である。

フランスは、戸建持家59.2%、共同建持ち家12.7%で、民間借家が17.8%と相対的に多い。ドイツの場合は、5か国中、持家居住の割合が最も低く、戸建持家42.7%、共同建持ち家11.4%である。これに対して、民間借家23.4%、公的借家16.7%と借家居住が多い。特に公的借家に居住する割合は、5か国中最も多い。

図9-1 住宅の種類



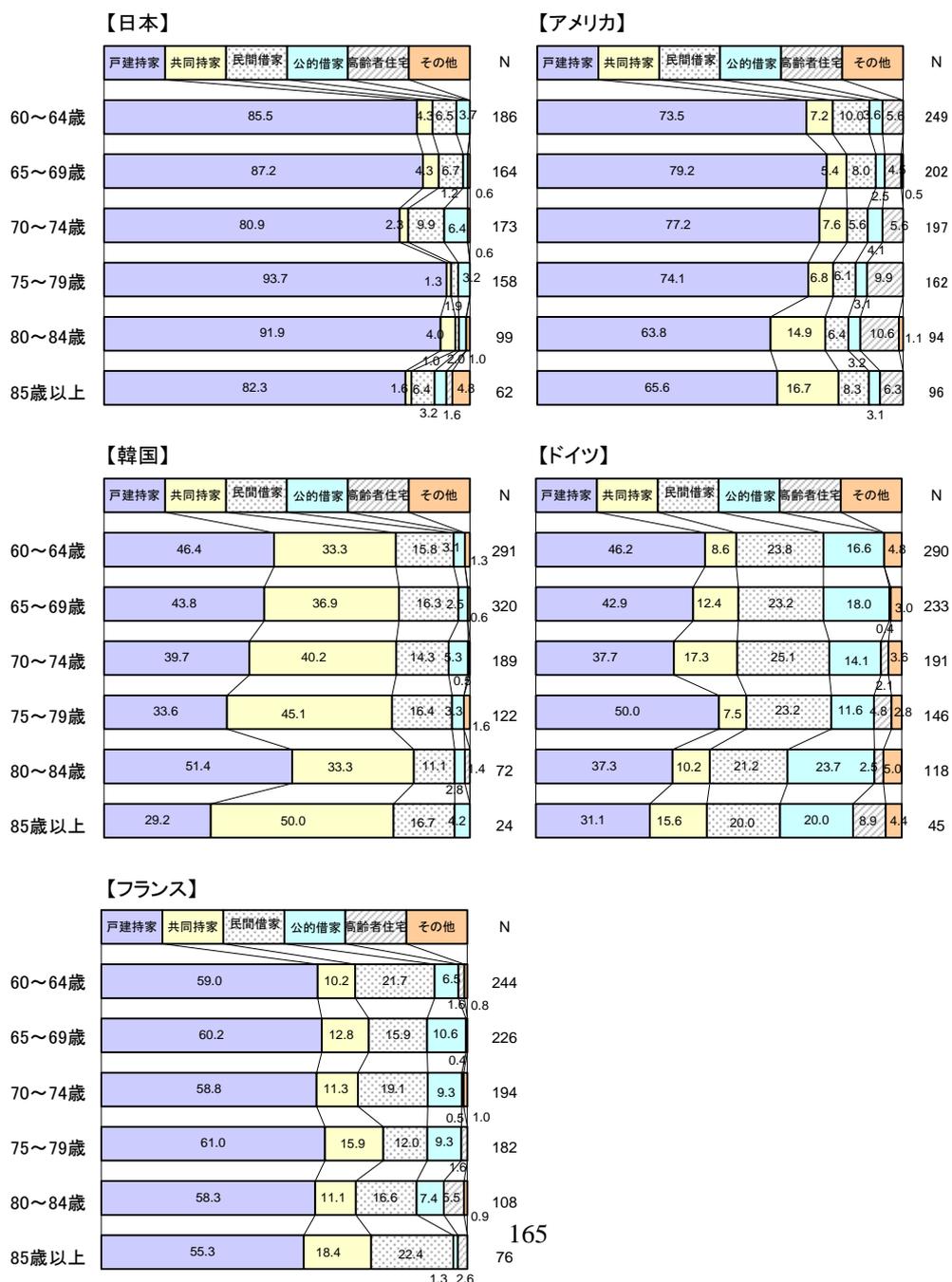
2 年齢からみた特徴

各国における年齢別の居住する住宅の種類の特徴についてみる。(図9-2)

日本の高齢者の場合は、いずれの年齢においても戸建持家に居住するものが8割以上を占め、年齢による際立った特徴はない。韓国の場合は、年齢が上のものほど、持家であっても、共同建に居住する割合が高くなる。60歳代では、戸建に居住する者が多いが、70歳代では、共同建の割合が多くなり、逆転する。ただし、80歳代前半のみは例外的に戸建持家が過半を占める。アメリカの場合は、60、70歳代では大きな違いがないが、80歳代になると、戸建持家が7割を下回り、共同建持家の割合が増加する。ドイツの場合も、70歳代までと80歳代以降で違いがみられる。80歳代以降になると、公的借家に居住する割合が2割以上を占めるようになる。フランスの場合は、85歳以上の場合に共同建持家や民間借家に居住する割合が高い。

全般的な傾向として、70歳代までと80歳以降では居住する住宅の種類に違いが生じるようだ。

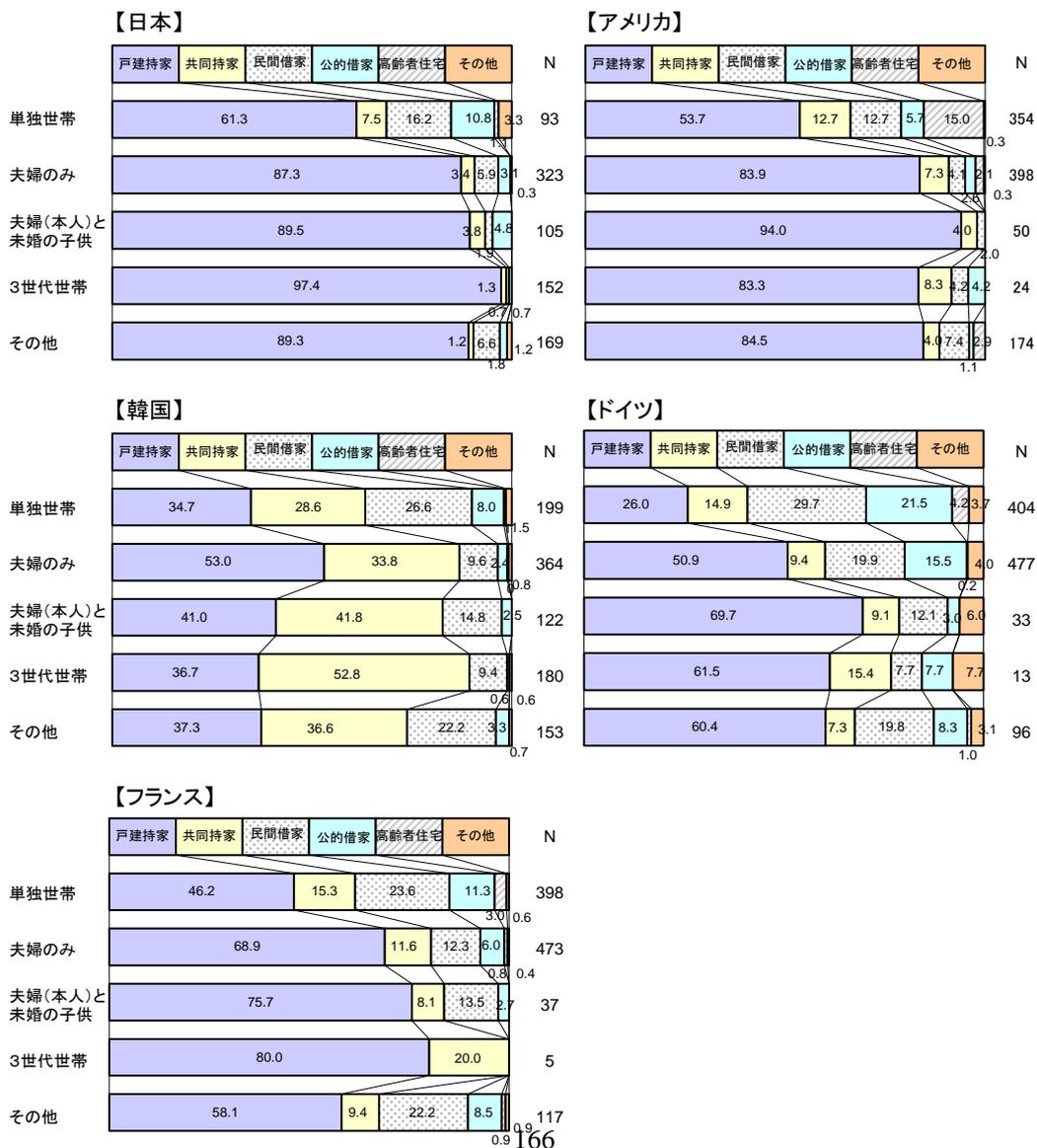
図9-2 年齢別の住宅の種類



3 世帯類型からみた特徴

各国における世帯類型別の居住する住宅の種類の特徴についてみる。(図9-3) 日本の場合、単身世帯のみ他の世帯類型とは全く異なる状況を呈している。単身世帯の戸建持家率は61.3%で極端に低く、民間借家率16.0%、公的借家率10.8%と他の世帯類型に比べると著しく高い。韓国の場合、単身世帯については日本と同様に持家率が他の世帯類型に比べて低く、民間借家率26.6%、公的借家率8.0%と高い割合を示す。また、夫婦のみ世帯は戸建持家の割合が53.0%と、共同建持家の33.8%より多いが、家族人数が多い3世代世帯や高齢者と子供からなる世帯では、共同建持家の方が多。アメリカの場合は、日本、韓国と同様に単身世帯の場合のみ戸建持家率が53.7%と極端に低いという特徴がある。また、高齢者住宅に居住する者が15.0%を占める。ドイツの場合は、単身世帯と夫婦世帯が他の世帯類型とは異なる特徴がある。単身世帯の場合は、民間借家率29.7%、公的借家率21.5%で、両者で過半を上回る。夫婦世帯の場合も、単身世帯ほどではないが、民間借家19.9%、公的借家15.5%の居住率が高いという特徴がある。フランスの場合は、単身世帯とその他世帯で、民間借家や公的借家に居住する割合が他の世帯類型に比べて多いという特徴がみられる。

図9-3 世帯類型別の住宅の種類



II 住宅への入居時期 (Q34)

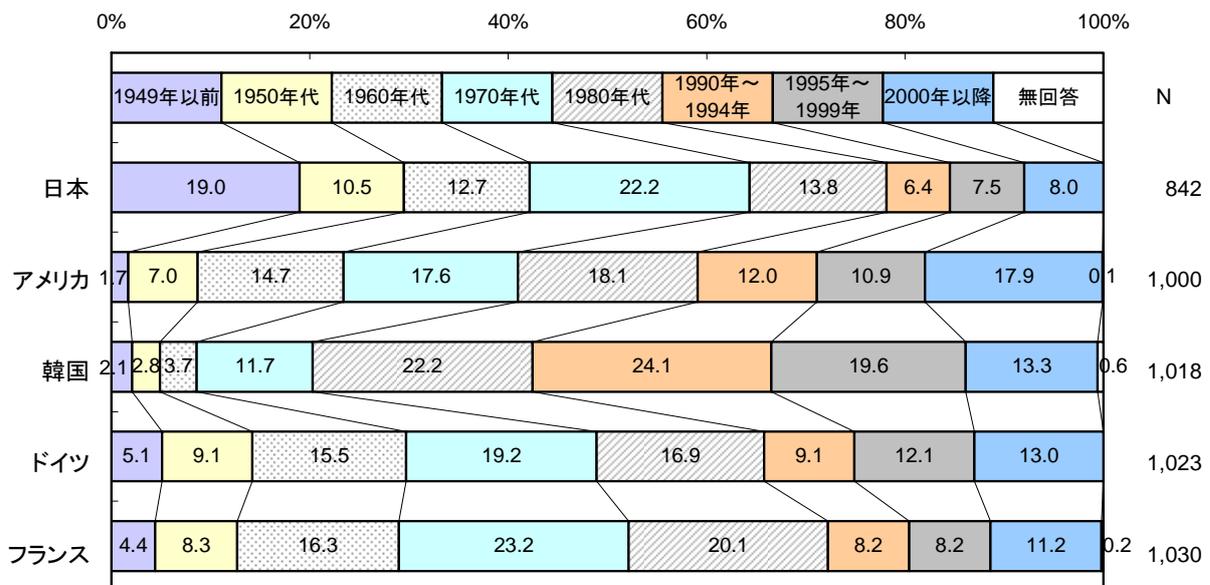
1 入居時期

日本の場合、1949年以前に入居した者、すなわち現住地に55年間以上も居住する者が19.0%を占め、他の国に比べて著しく高い割合を示している。1995年以降の入居、すなわち過去10年以内に住宅を住み替えたものは、15.5%にしかすぎない。

これとは対照的に、入居時期が最近の者の割合が最も高いのは韓国である。1995年以降入居の者が32.9%を占め、3分の1の者が50歳以降に住み替えたことになる。さらに、1990～94年入居の者を合わせると57.0%にも達する。韓国のこの傾向は前回調査においても同様であったが、明確な理由はよくわからない。

アメリカの場合、2000年以降の入居者、すなわち過去5年以内に住み替わったものが17.9%もある。高齢期の住み替えが極めて活発であることがわかる。2000年以降の住み替え者は、ドイツでは13.0%、フランス11.2%といずれも1割を超えている。(図9-4)

図9-4 住宅への入居時期



2 高齢者の住居移動

調査対象者の年齢と住宅の入居時期の関係から、高齢期になってから住居移動を行ったかどうかを推測することができる。そこで、現在65才以上の者に対して、60才以上になってから住居移動を行ったと確実に考えられる者の割合(高齢期移動率)を求めると表9-1のようになる。結果は国によって大きな違いが見られた。

高齢期移動率は、日本は16.0%と最も低い。ただし、前回調査に比べると5ポイント程度増えている。次いで、フランス19.5%、ドイツ22.4%である。これら両国とは対照的に韓国、アメリカの高齢期移動率は極めて高い。アメリカは30.6%、韓国30.5%で、ほぼ3人に1人の割合で60歳以降の住居移動がある。前回調査でも、この2カ国での住居移動率は高かったが、アメリカの場合は

前回調査の値に変化がないのに対して、韓国の場合は13ポイント減少している。

現在75歳以上の者に対して、70歳以降で住居移動を行ったかどうかをみると、フランスが最も低く10.9%、次いで日本が11.9%である。アメリカの場合は24.7%、韓国21.6%、ドイツ19.7%で、これらの国では2割程度の者が70歳以降に住居を移動している。

表 9-1 高齢者の住居移動 (%)

	65才以上で60才以降に住居移動をした人の割合* ¹	75才以上で70才以降に住居移動をした人の割合* ²
日本	16.0%	11.9%
アメリカ	30.6%	24.7%
韓国	30.5%	21.6%
ドイツ	22.4%	19.7%
フランス	19.5%	10.9%

*1 入居時期は1990年より前は10年間での移動、それ以降は5年間毎の移動を回答してもらっている。そこで、調査対象者の現在年齢と入居時期のクロス集計の結果からみて、現在65才以上の総数に対する「確実に60才以降に住居移動をした者」の割合を求めた。実際の値はこれよりも多い。

*2 上記の同じ方法で、現在75才以上の総数に対する「確実に70才以降に住居移動をした者」の割合を求めた。実際の値はこれよりも多い。

III 住宅の問題点と満足度

1 住宅の問題点 (Q35)

(1) 5カ国別の特徴

住宅に何も問題を感じていない割合が最も高いのはドイツで67.6%がそう答えている。また、アメリカは64.7%、フランスは64.3%が何も問題がないとしており、ドイツと大差はない。反対に、住宅に問題を感じている割合が最も高いのは韓国で48.7%である。日本の場合は45.0%である。ただし、日本の値は前回調査に比べると10ポイントの低下が見られる。

住宅に関してどのような問題を感じているのかを具体的にみると、日本の場合は住宅が古くなりいたんでいる16.7%、段差や階段等の住宅構造が高齢者に使いにくい13.1%、台所、便所、浴室等の設備が高齢者に使いにくい10.5%等の指摘が多い。また、今回調査であらたに加えた新しい選択肢である地震などに対する防災設備について11.0%が問題があるとしており、他の国に比べると高い割合を示している。ただし、いずれの選択肢についても、前回調査に比べるとポイント数の低下がみられ、住宅の問題は縮小する傾向にあるといえる。

韓国の場合には、住宅が古くなりいたんでいると25.7%が回答しており目立つ。アメリカの場合は、家賃・税金等の経済的な負担11.7%、住宅が広すぎて管理がたいへん9.9%を指摘する割合が高い。ドイツ、フランスの場合は、住宅の構造が高齢者に使いにくいとの指摘が1割強ある以外は、目立つ指摘はない。(表 9-2)

表 9-2 住宅の問題点

(%)

	住宅が狭い	部屋数が少ない	住宅が広すぎて管理がたいへん	台所等の設備が使いにくい	住宅構造が使いにくい	古くなりいたんでいる	家賃、税金等の経済的な負担が重い	転居を迫られる心配がある	日当たりや風通しが悪い	防犯設備が整っていない	地震などに対する防災設備に不安	その他	何も問題を感じていない	無回答
日本	7.6	5.3	6.7	10.5	13.1	16.7	3.3	0.5	5.6	4.5	11.0	2.7	55.0	-
アメリカ	8.4	5.2	9.9	4.6	8.8	4.5	11.7	1.3	1.6	3.3	1.7	1.3	64.7	0.2
韓国	18.5	7.7	1.4	13.5	13.1	25.7	12.2	1.3	9.5	6.2	6.2	3.5	51.3	-
ドイツ	3.5	2.0	5.9	8.1	12.5	2.0	7.1	6.9	1.0	3.1	2.3	2.8	67.6	0.2
フランス	5.3	2.8	9.7	5.1	10.4	4.1	9.7	4.9	1.1	1.6	1.7	1.1	64.3	-

(2) 健康状態からみた特徴

健康状態別にみた住宅の問題点に関する特徴は、各国とも共通して健康状態がよくない層ほど問題点を指摘する割合が高いことである。健康を損ねるにしたがって、住宅に関する不具合が顕在化してくるからだろう。どのような点に問題を感じるかをみると、いずれの国でも段差や階段等の住宅の構造が高齢者に使いにくい、台所、便所、浴室などの設備が高齢者に使いにくいとの指摘が、健康状態が低下している者ほど多い。

また、アメリカ、フランスの場合は、健康状態が低下している者ほど、住宅が広すぎてたいへんという指摘が増える。さらに、ドイツ、フランスでは、健康状態が低下した者ほど、転居を迫られる心配を指摘する割合が高い。(表 9-3)

表 9-3 健康状態別住宅の問題点

		住宅が狭い	部屋数が少ない	住宅が広すぎて管理がたいへん	台所等の設備が使いにくい	住宅構造が使いにくい	古くなり傷んでいる	家賃、税金等の経済的負担が重い	転居を迫られる心配がある	日当たりや風通しが悪い	防犯設備が整っていない	地震などに対する防災設備に不安	その他	何も問題を感じていない	無回答
日本	健康	7.9	5.0	6.5	8.3	10.3	14.6	2.6	0.4	4.2	4.1	11.3	3.0	56.5	-
	病気ではない	7.5	5.6	6.0	13.1	16.7	19.8	4.8	0.8	6.7	5.2	10.7	2.0	53.2	-
	病気がち・寝込んでいる	4.2	8.3	12.5	20.8	25.0	25.0	4.2	-	14.6	6.3	10.4	4.2	47.9	-
アメリカ	健康	7.2	3.9	9.2	3.3	6.4	3.1	10.2	0.7	1.0	3.4	1.1	1.1	70.0	0.2
	病気ではない	10.4	7.6	10.4	6.4	12.2	7.0	14.1	2.1	2.8	3.1	3.1	1.8	56.3	0.3
	病気がち・寝込んでいる	9.5	4.8	14.3	7.9	14.3	4.8	14.3	3.2	1.6	3.2	-	-	57.1	-
韓国	健康	17.7	4.8	0.9	8.4	8.4	20.5	8.2	0.2	6.6	5.7	5.5	1.4	60.7	-
	病気ではない	20.5	10.5	2.6	15.3	15.3	27.8	11.4	1.4	10.5	5.1	4.8	3.7	48.6	-
	病気がち・寝込んでいる	16.8	8.8	0.4	20.4	18.6	32.7	21.2	3.1	13.7	8.8	9.7	7.5	37.2	-
ドイツ	健康	3.3	0.9	4.5	3.9	7.4	1.5	3.9	2.4	0.3	1.2	0.9	3.3	78.6	0.3
	病気ではない	3.9	2.6	6.5	9.6	13.5	2.1	7.5	8.2	1.1	4.0	2.6	2.6	64.3	0.2
	病気がち・寝込んでいる	2.6	1.8	7.0	13.2	22.8	2.6	14.9	14.0	2.6	4.4	5.3	2.6	51.8	-
フランス	健康	4.4	2.7	7.1	3.6	6.2	3.1	8.7	3.8	1.1	2.0	1.5	1.5	70.2	-
	病気ではない	5.4	3.1	12.4	6.5	14.7	5.2	11.1	5.2	0.8	1.0	2.1	0.8	59.2	-
	病気がち・寝込んでいる	10.9	2.2	14.1	8.7	17.4	5.4	9.8	9.8	2.2	1.1	1.1	-	50.0	-

注) 調査票では回答者の健康状態を4段階で設定しているが、「寝込んでいる」者は少いので「病気がち」と同一カテゴリーにして集計した。

(3) 住宅種類からみた特徴

日本の場合は、何も問題を感じていない割合は、共同建持家 61.5%、戸建持家 55.0%と過半数を上回るが、民間借家居住者の 60.4%、公的借家居住者の 51.7%は何らかの問題を感じている。民間借家では、住宅が古くなり傷んでいる 39.6%、住宅が狭い 20.8%という指摘が多い。公的借家の場合は、設備が使いにくい 24.1%、古くなり傷んでいる 20.7%の指摘が多い。

韓国の場合は、公的借家居住者の 61.8%、民間借家の 59.6%が何らかの問題を感じている。公的借家の場合は、家賃、税金などの経済的負担 35.3%、住宅が狭い 32.4%、部屋数が少ない 29.4%という指摘が多い。民間借家の場合は、古くなり傷んでいる 30.6%、住宅が狭い 27.4%という指摘が多い。

アメリカの場合も、借家に居住している者に問題を感じている割合が高い。民営借家の場合は住宅が狭いこと 21.1%を指摘する割合が高い。

ドイツの場合は、相対的にみて民営借家で問題を感じている割合が 43.7%と高い。その内容は、家賃、税金などの経済的負担 17.2%や、転居を迫られる心配 13.8%、住宅の構造が使いにくい

13.8%などである。

フランスの場合は、民間借家の51.4%、公的借家の47.6%が何らかの問題を感じている。その指摘としては家賃、税金など経済的な負担に関することが2割程度を占めている。(表9-4)

表9-4 住宅の所有形態別住宅の問題点

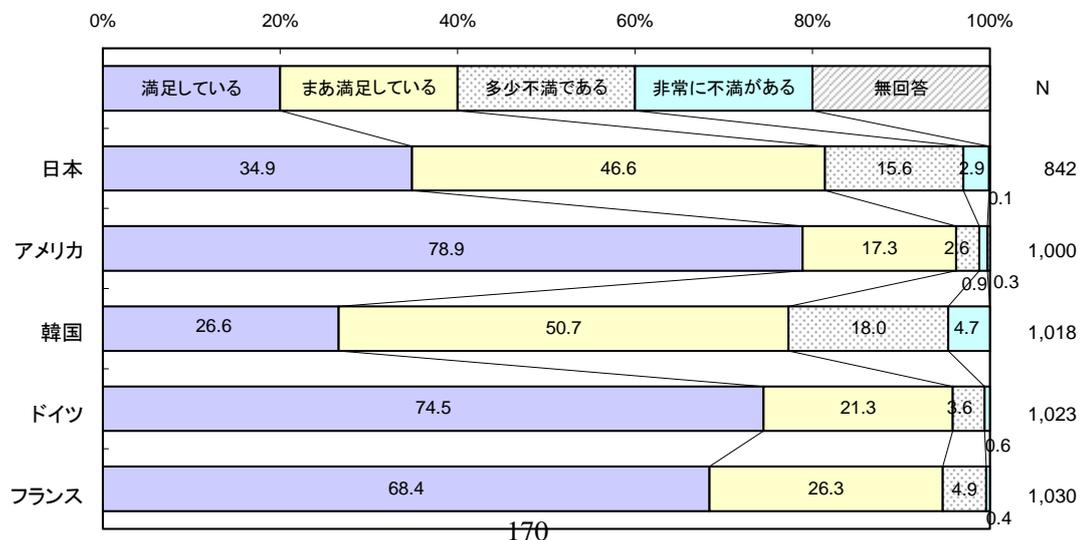
		住宅が狭い	部屋数が少ない	住宅が広すぎて管理がたいへん	台所等の設備が使いにくい	住宅構造が使いにくい	古くなりたんてい	家賃、税金等の経済的な負担が重い	転居を迫られる心配がある	日当たりや風通しが悪い	防犯設備が整っていない	地震などに対する防災設備に不安	その他	何も問題をかんじていない	無回答
日本	戸建持家	6.6	4.5	7.0	9.8	13.1	15.4	2.7	0.4	5.2	4.8	11.3	2.3	55.7	-
	共同建持家	19.2	15.4	-	7.7	11.5	7.7	-	-	3.8	-	3.8	3.8	61.5	-
	民間借家	20.8	8.3	6.3	12.5	12.5	39.6	10.4	2.1	12.5	2.1	16.7	8.3	39.6	-
	公的借家	3.4	13.8	6.9	24.1	17.2	20.7	10.3	-	6.9	3.4	3.4	3.4	48.3	-
	高齢者住宅	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
アメリカ	戸建持家	6.6	4.3	12.7	4.5	9.9	4.3	13.3	0.8	1.1	1.8	1.8	1.1	64.8	0.3
	共同建持家	4.7	4.7	2.4	2.4	5.9	4.7	8.2	-	1.2	4.7	1.2	-	76.5	-
	民間借家	21.1	9.2	3.9	10.5	11.8	11.8	9.2	3.9	5.3	10.5	1.3	-	52.6	-
	公的借家	6.1	12.1	-	9.1	3.0	-	3.0	6.1	3.0	12.1	6.1	6.1	54.5	-
	高齢者住宅	19.7	7.6	-	-	-	-	4.5	3.0	3.0	6.1	-	4.5	68.2	-
韓国	戸建持家	17.7	6.2	2.3	20.0	17.9	34.0	12.9	0.7	12.0	9.4	10.3	5.3	41.8	-
	共同建持家	14.1	6.5	0.5	3.7	6.3	14.4	7.3	0.5	2.9	2.1	1.6	2.6	67.8	-
	民間借家	27.4	8.9	0.6	17.8	17.2	30.6	16.6	3.8	18.5	7.0	4.5	1.9	41.4	-
	公的借家	32.4	29.4	-	11.8	2.9	14.7	35.3	-	5.9	-	2.9	-	38.2	-
	高齢者住宅	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
ドイツ	戸建持家	0.7	0.9	10.3	6.4	13.3	1.8	2.3	3.2	0.5	3.7	3.2	1.8	72.3	0.2
	共同建持家	3.4	4.3	4.3	6.0	11.1	0.9	6.8	6.8	-	1.7	0.9	1.7	73.5	-
	民間借家	4.6	2.9	2.9	7.9	13.8	2.9	17.2	13.8	2.5	2.1	1.7	4.6	57.3	-
	公的借家	5.8	1.8	1.2	15.8	12.9	2.3	8.2	8.2	1.2	4.7	2.9	2.9	64.9	0.6
	高齢者住宅	10.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10.5	78.9
フランス	戸建持家	2.0	1.0	13.6	4.3	9.2	2.6	4.6	3.8	1.0	0.8	1.6	0.5	71.1	-
	共同建持家	6.9	3.8	7.6	3.1	12.2	2.3	13.0	2.3	0.8	3.8	1.5	3.1	61.8	-
	民間借家	13.1	7.1	3.3	9.8	11.5	9.3	21.3	7.7	1.6	1.1	1.6	1.6	48.6	-
	公的借家	9.5	3.6	-	6.0	15.5	6.0	19.0	9.5	1.2	4.8	1.2	-	52.4	-
	高齢者住宅	11.8	5.9	5.9	-	5.9	5.9	-	5.9	-	-	-	5.9	64.7	-

2 住宅の満足度 (Q36)

(1) 5カ国別の特徴

住宅の満足度は当然のことながら問題点の指摘と裏腹の関係にある。満足している割合が最も高いのはアメリカで79.3%、次いでドイツ74.5%、フランス68.4%である。これらの国とは対照的に、韓国と日本では満足している割合が低く、日本では34.9%、韓国では26.6%にしかすぎない。ただし、経年的な変化をみると、日本の満足している割合は、27.8%→31.0%→25.6%→34.9%（第3～6回[以下、同じ]）と変化してきており、前回に比べると10ポイント近く上昇している。（図9-5）

図9-5 住宅の満足度



(2) 年齢・健康状態からみた特徴

年齢別に住宅に関する満足度をみると、満足していると解答したものの割合でみるかぎり、日本は高い年齢階層ほどそう答える者の割合が増えているのに対して、他の国ではそうした傾向はみられない。これは前回調査でもみられた傾向である。(図 9-6)

健康状態別には、各国共通して健康状態がよくない層ほど満足している割合が低下し、不満があると答える者が多くなる。健康を損ねるにしたがって住宅に関する不具合が顕在化し、その結果、満足度も低下するのであろう。(図 9-7)

図 9-6 年齢別の住宅満足度

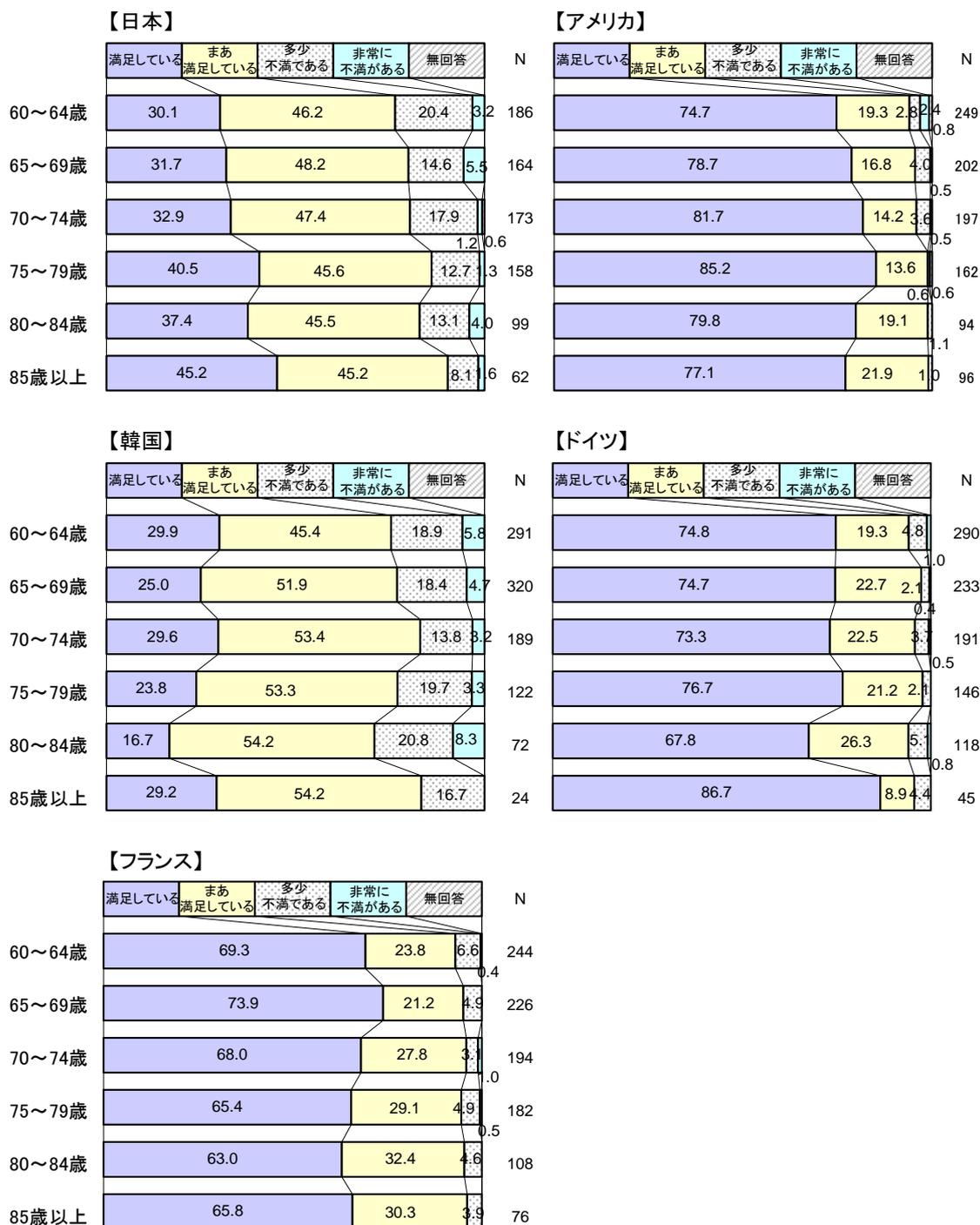
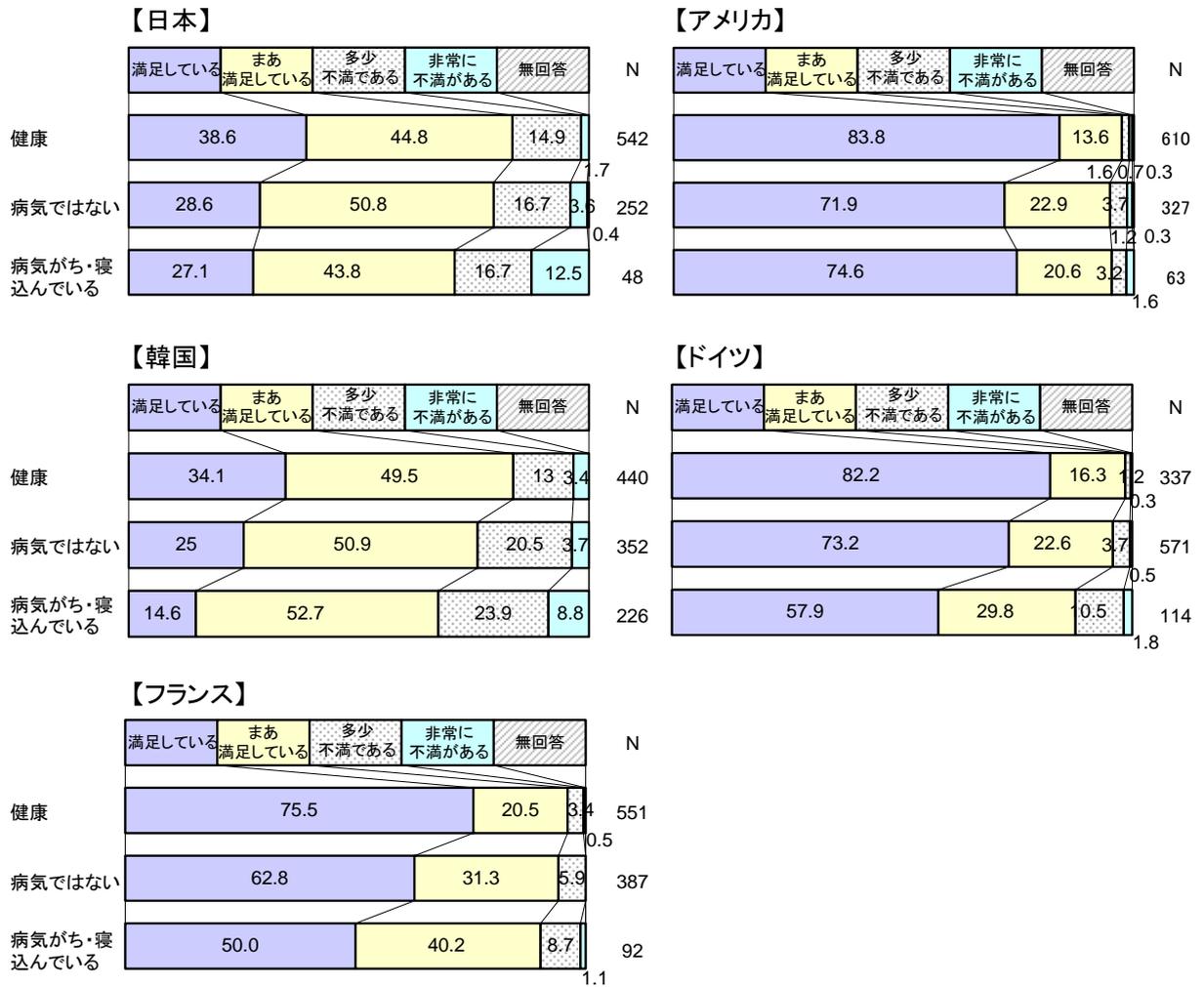


図 9-7 健康状態別の住宅満足度



(3) 住宅種類からみた特徴

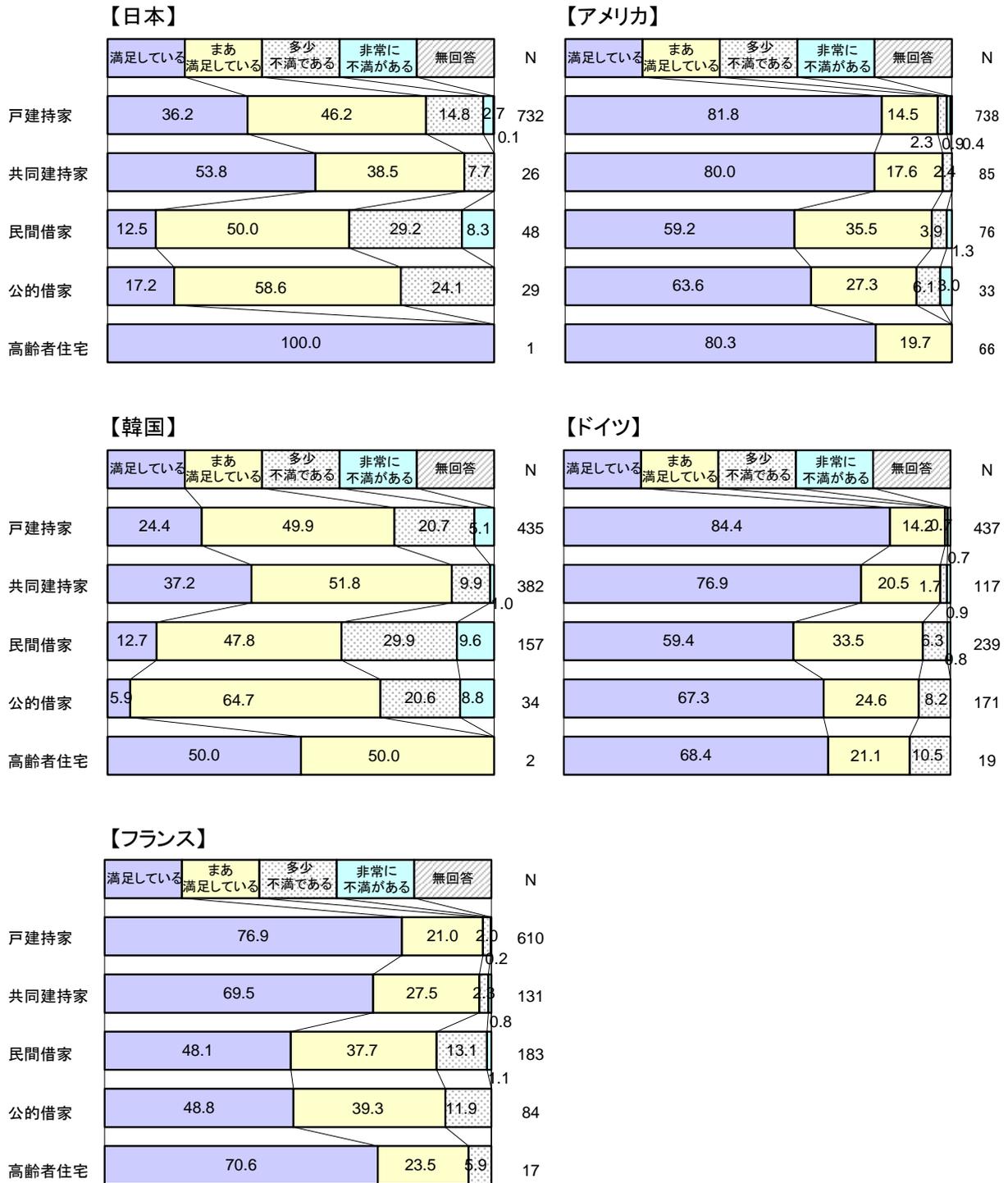
住宅の所有形態年別に住宅に関する満足度をみると、どの国も共通して、持家の方が満足している割合が高く、借家ではその割合が低いという傾向がある。

日本の場合には、共同建持家で満足している割合が最も高く 53.8%，戸建持家では 36.2% であるのに対し、民間借家では 12.5%，公的借家では 17.2% と低い。民間借家の場合には 4 割近くが不満を持っている。韓国の場合も、日本と同様の傾向にある。

アメリカは、「満足」と、「まあ満足」をあわせると住宅種別による違いは少ないが、満足している割合だけだと、公的借家 63.6%，民間借家 59.2% は他の種類の住宅に居住する者に比べると低い。ドイツもほぼ同じ傾向である。

フランスの場合には、「多少不満」と「非常に不満」をあわせると民間借家で 14.1%，公的借家で 11.9% とやや高いことが目立つ。(図 9-8)

図 9-8 住宅種類別の住宅の満足度



IV 地域環境の問題点と満足度

1 地域の問題点 (Q37)

(1) 5カ国別の特徴

地域に何も問題を感じていない割合は、フランス 68.8%、アメリカ 67.5%、ドイツ 61.2%、韓国 60.5%、日本 53.6%で、日本が最も低い。ただし、日本の前回調査での同じ設問に対する解答は 44.8%だったので、若干の改善がみられる。

問題と感じている中身についてみると。日本の場合は、日常の買い物に不便 13.5%、医院や病院への通院に不便 10.7%と、地域の利便性について問題を感じる割合が相対的に高い。ドイツ、フランスの場合も、日常の買い物に不便だという指摘が他の選択肢に比べると高い割合を示す。

韓国の場合は、交通機関が利用しにくい 16.9%、公共交通機関の整備不足 12.8%と、交通に関する問題を指摘する割合が高い。

アメリカは、公共交通機関の整備不足 11.6%、盗難・放火等の犯罪が心配 10.4%という指摘が他の選択肢に比べると多い。犯罪への不安は、アメリカの場合、毎回の調査で指摘される割合の高い項目であるが、4回から6回までの値の変化をみると、31.7%→16.0%→10.4%と低下してきており、著しい改善がみられる。一方、日本の場合は、盗難・放火等の犯罪が心配という指摘が前回の 8.3%から 9.5%へと上昇しており、犯罪不安を指摘する値がアメリカとあまり変わらなくなっていることは注目する必要がある。(表 9-5)

表 9-5 地域の問題点

	日常の 買い物 に不便	医院や 病院へ の通院 に不便	図書館 などの 公共施 設が不 足	バス等 公共交 通が不 便	公共建 物が使 いにく い	交通機 関が利 用しに くい	近隣道 路が整 備され ていな い	散歩に 適した 公園等 がない	騒音等 の環境 が悪い	盗難・ 放火等 犯罪が 心配	水害等 自然災 害に弱 い	その他	何も問 題を感 じてい ない	無回答
日本	13.5	10.7	3.7	8.4	3.7	7.5	5.9	7.2	7.6	9.5	6.5	3.4	53.6	0.1
アメリカ	7.7	5.9	2.9	11.6	3.0	7.9	8.0	6.1	4.8	10.4	3.3	1.3	67.5	-
韓国	7.3	14.3	7.1	12.8	6.9	16.9	5.6	10.2	9.6	3.8	2.2	2.7	60.5	-
ドイツ	18.9	8.6	7.4	8.0	7.5	7.7	6.6	4.4	7.5	5.4	1.3	2.2	61.2	0.2
フランス	11.8	5.7	3.6	9.3	1.8	5.7	5.6	4.4	5.9	5.6	0.2	0.7	68.8	-

(2) 都市規模からみた特徴

各国について、調査対象者の居住地の都市規模別に地域の問題点の指摘の状況をみてみた。(表 9-6)

日本の場合は、前回調査では、大都市（13大都市）ほど何も問題を感じていないとする割合が高く 53.7%がそう答えているのに対し、今回調査では 48.8%にまで低下し、他の都市規模に比べて問題を感じる割合が高くなっている。問題指摘の内容をみると、13大都市では盗難・放火等の犯罪が心配、日常の買物に不便がともに 18.9%ある。防犯性、利便性の点で問題が大きくなっている。一方、5万人未満の都市や郡部では、交通機関が利用しにくい、日常の買物に不便、医院や病院への通院に不便などの交通環境や利便性に関する問題指摘が多いことが目立つ。

韓国の場合、何も問題を感じていないとする割合は大都市ほど高い。小規模都市以下のEUP/MYUNでは通院の不便さ 38.2%、交通機関の利用のしにくさ 36.0%、公共交通の未整備 28.7%の指摘が多い。これは前回調査と同様の結果であり、韓国の場合には、地方では交通利便性の低さに問題が多いようだ。

アメリカの場合、100万人以上の都市では問題を感じていないとするものは56.1%で、盗難や放火等の犯罪の心配 18.3%、騒音等の環境が悪い 14.6%が多く指摘されている。

ドイツの場合、大都市に比べて小規模都市の方が、問題を感じている割合がやや高い。ただし、問題点のほとんどは日常の買物が不便ということに集中している。

フランスの場合、都市規模による大きな違いはないが、小規模な都市ほど日常の買物に不便、公共交通機関の整備が不足などの指摘がやや多い。

表 9-6 都市規模別地域の問題点

(%)

		日常の 買い物 に不便	医院や 病院へ の通院 に不便	図書館 などの 公共施 設が不 足	バス等 公共交 通が不 便	公共建 物が使 いにく い	交通機 関が利 用しにく い	近隣道 路が整 備され ていな い	散歩に 適した 公園等 がない	騒音等 の環境 が悪い	盗難・ 放火等 犯罪が 心配	水害等 自然災 害に弱 い	その他	何も問 題を感 じてい ない	無回答
日本	13大都市	18.9	8.7	3.9	7.1	4.7	3.9	0.8	6.3	7.1	18.9	8.7	4.7	48.8	-
	15万人以上	10.7	9.9	6.4	6.4	4.3	5.2	6.0	9.9	7.7	7.7	7.3	2.6	54.5	-
	5~15万人	9.6	4.2	2.4	3.0	3.6	4.8	9.6	9.0	13.9	8.4	4.8	5.4	54.8	-
	5万人未満	15.2	13.6	1.5	12.1	3.0	18.2	10.6	-	4.5	6.1	4.5	4.5	54.5	-
	郡部	15.6	16.0	2.4	13.6	2.8	10.4	4.8	6.0	4.4	8.0	6.4	2.0	54.0	0.4
アメリカ	100万人以上	3.7	4.9	1.2	7.3	1.2	8.5	11.0	4.9	14.6	18.3	6.1	1.2	56.1	-
	50~100万人	4.0	4.0	4.0	4.0	-	8.0	8.0	6.0	12.0	14.0	-	2.0	74.0	-
	25~50万人	10.1	3.6	-	6.5	3.6	7.2	5.8	7.2	4.3	10.1	4.3	1.4	73.2	-
	10~25万人	5.6	5.6	1.4	5.6	2.8	6.9	5.6	4.2	5.6	13.9	2.8	1.4	69.4	-
	5~10万人	8.8	4.1	4.8	7.5	4.8	8.2	6.8	5.4	2.7	9.5	5.4	0.7	72.1	-
5万人未満	8.0	7.4	3.5	16.4	2.9	8.0	8.8	6.5	3.1	8.6	2.3	1.4	65.6	-	
韓国	大都市	2.9	6.9	3.6	10.3	4.5	12.6	2.9	11.5	10.0	2.1	1.4	1.4	66.3	-
	中規模都市	6.0	14.0	8.4	10.4	5.6	15.1	5.2	7.6	10.6	5.2	2.2	3.7	61.3	-
	EUP/MYUN	25.0	38.2	13.2	28.7	18.4	36.0	15.4	15.4	5.1	4.4	4.4	2.9	39.7	-
ドイツ	50万人以上	16.0	5.0	5.6	5.0	6.5	7.1	6.8	3.0	8.6	5.6	0.6	2.7	64.2	0.3
	10~50万人	15.9	9.8	8.9	7.3	6.7	6.1	6.4	4.9	7.0	5.5	1.5	1.2	63.3	-
	5~10万人	20.1	9.4	8.6	10.1	9.4	10.1	5.0	3.6	5.8	5.8	1.4	2.2	58.3	-
	2~5万人	31.6	13.7	3.2	7.4	6.3	9.5	8.4	3.2	7.4	6.3	1.1	3.2	50.5	-
	5千~2万人	25.6	14.1	12.8	14.1	15.4	9.0	7.7	6.4	10.3	5.1	3.8	1.3	61.5	-
	2~5千人	20.0	2.5	5.0	15.0	2.5	5.0	5.0	12.5	5.0	-	-	5.0	55.0	2.5
	2千人未満	16.7	16.7	16.7	50.0	16.7	50.0	16.7	16.7	-	-	-	16.7	50.0	-
フランス	パリ周辺10万人以上	4.5	2.3	3.8	2.3	2.3	6.8	10.6	6.8	16.7	12.1	-	0.8	65.9	-
	10万人以上	8.7	4.5	4.5	7.7	2.4	6.6	3.1	4.2	4.2	4.5	-	2.1	73.5	-
	2~10万人	10.7	2.5	2.5	5.7	1.9	5.0	8.8	10.7	6.9	11.9	0.6	-	68.6	-
	2千~2万人	13.0	10.4	2.6	10.9	1.0	7.8	6.2	2.1	4.1	3.6	0.5	-	65.8	-
	2千人未満	18.9	7.3	3.9	15.8	1.5	3.1	3.5	1.2	3.1	1.2	-	-	67.6	-

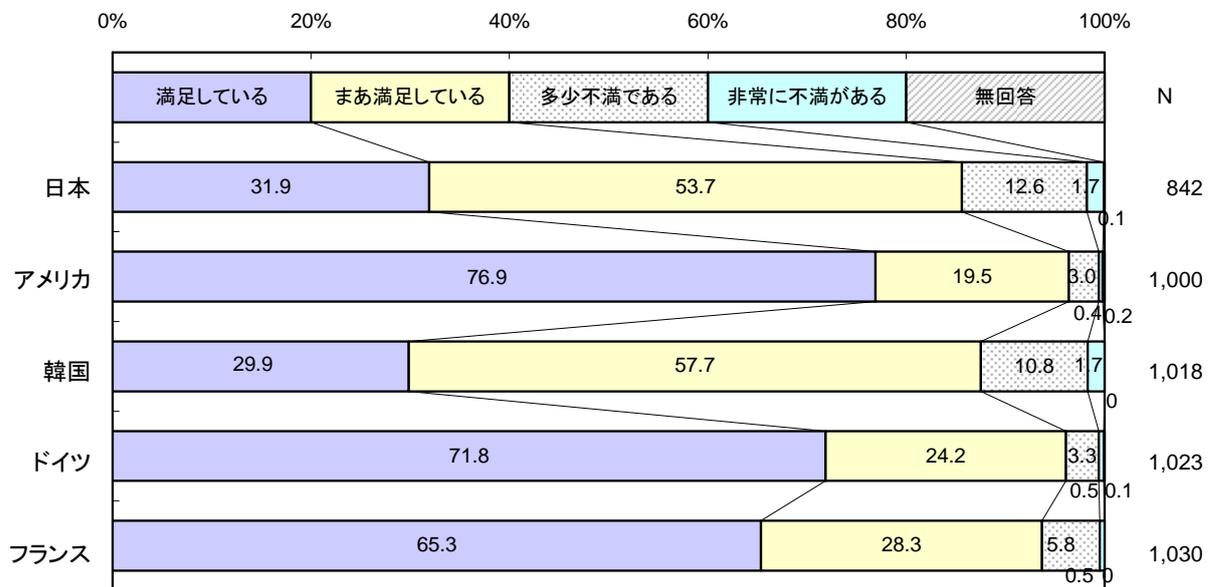
2 地域環境の満足度 (Q38)

(1) 5カ国別の特徴

地域環境に関する総合的な満足度は、「満足している」「まあ満足している」という者をあわせると、アメリカ 96.4%、ドイツ 96.0%、フランス 93.6%、韓国 87.6%、日本 85.6%で、欧米3カ国とアジア2カ国の間に多少の差があり、日本が最も低いという結果になっている。

また、満足していると答えた割合だけで見ると、アメリカが最も高く 77.8%で、ついでドイツが 71.8%である。前回調査に比べると、アメリカはほとんど変化していないのに対し(75.2%→77.8%)、ドイツは 51.1%→71.8%と著しく上昇している。フランスは 65.3%である。一方、アジア2カ国は満足している割合は日本 31.9%、韓国 29.9%であり、欧米の国とは大差がある。(図 9-9)

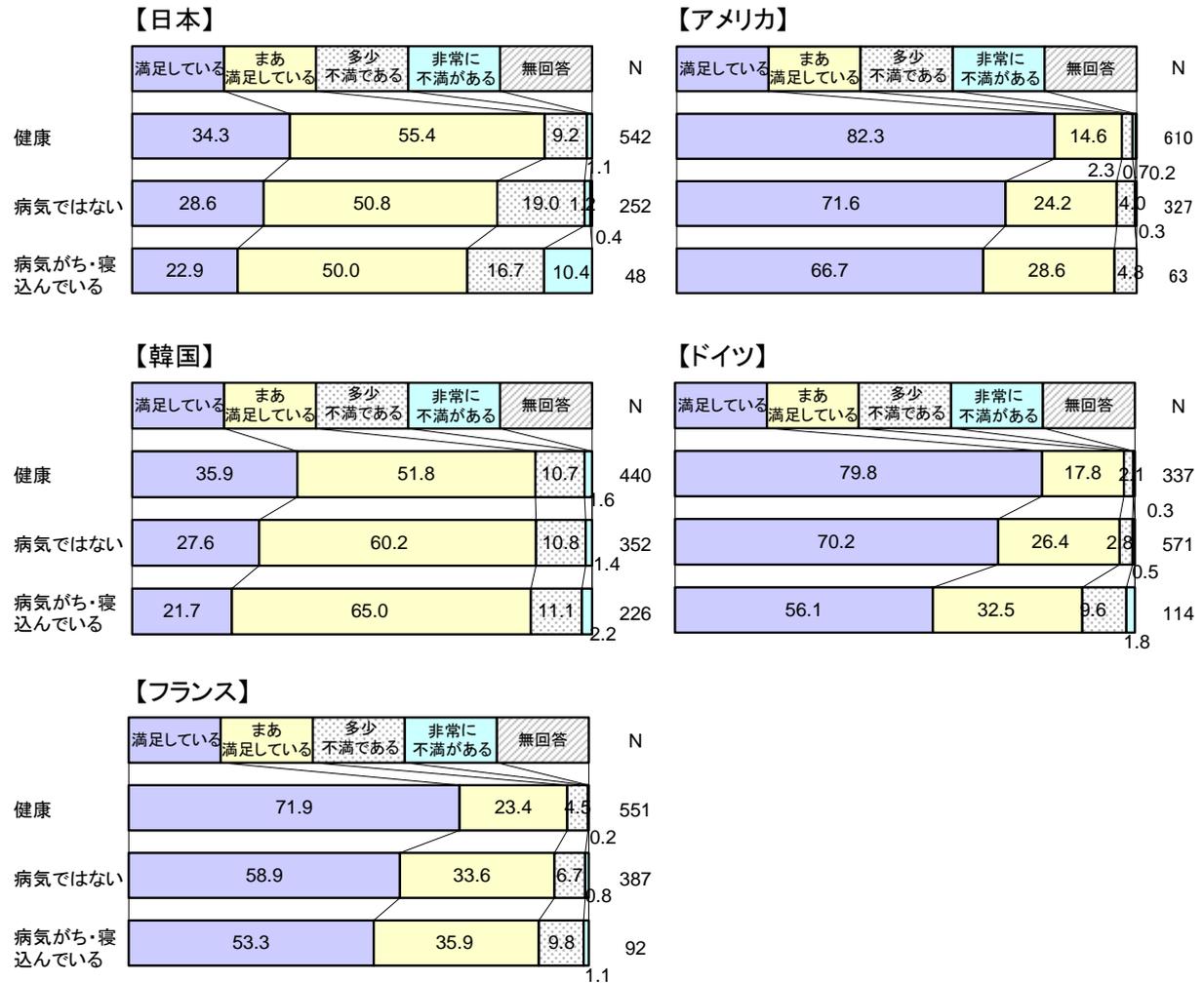
図 9-9 地域環境の満足度



(2) 健康状態からみた満足度

健康状態別に地域環境に関する満足度をみると、各国共通して、健康を損ねた者ほど、満足しているという回答が少なくなる傾向がある。健康の悪化によって地域環境の不備が目立ってくるからであろう。(図 9-10)

図 9-10 健康状態別の地域環境の満足度

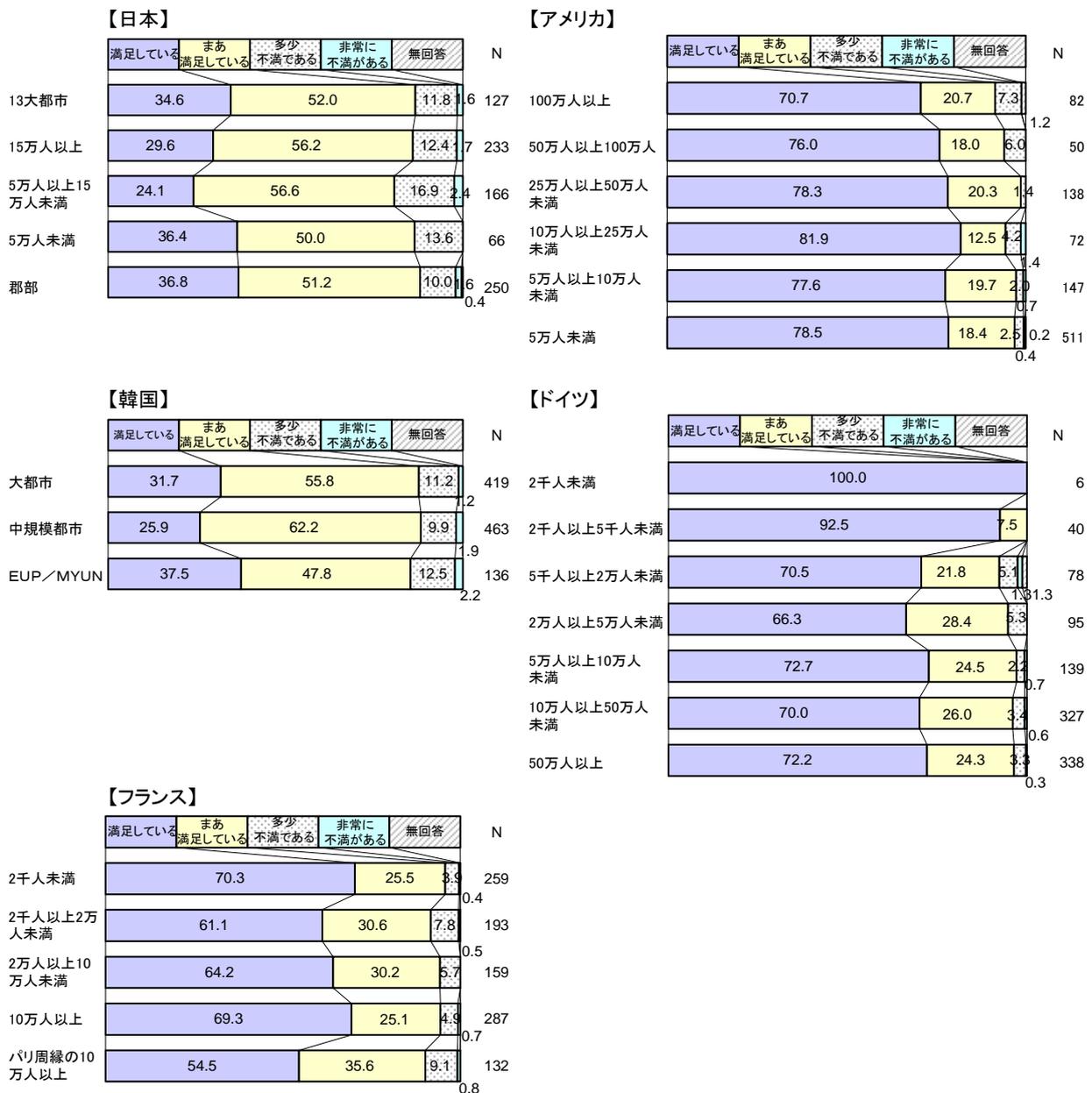


(3) 都市規模からみた特徴

各国の都市規模別に地域環境に関する満足度をみると、日本の場合は5～15万人未満の都市で「多少不満」と「非常に不満」をあわせると19.3%と他の都市規模に比べて高いことが目立つ。前回調査で、「多少不満」と「非常に不満」をあわせると28.6%を占めていた5万人未満の都市では、その値が13.6%とかなり低下しているが、規模の大きな都市に比べるとその値は大きい。韓国も、若干ではあるが、小都市の方が不満とする割合が高い傾向がある。

アメリカでは、大都市ほど不満な割合が高く、小規模な都市ほど満足している割合が高い傾向がある。ドイツ、フランスでも同様の傾向がみられる。(図9-11)

図9-11 都市規模別の地域環境の満足度



V 外出手段と不便な点

1 外出手段 (Q41)

(1) 5カ国別の特徴

外出の利用手段を複数回答してもらったところ、韓国のみが他の国とは全く異なった結果となっている。韓国では、バス・路面電車を利用する者が78.6%もあり、次いで徒歩が67.0%である。各国で高い割合を示す自分で運転する車は、わずか9.8%しかない。この値は、前回調査に比べると3.8ポイント上昇しているが、それでもかなり低く、韓国の現高齢者はモータリゼーションの洗礼を受ける以前の世代で免許取得率が低いのではないかと推測される。

日本の場合は、徒歩が46.4%あるが、この割合はアメリカに次いで低い割合で、自転車の28.1%がドイツとほぼ同じ程度で相対的に高い割合を示す。自分で運転する自動車の割合は40.3%で、韓国の次に低い値であるが、前回調査に比べると3ポイント程度上昇している。また、自動車利用に関しては男女差が見られる。自分で運転する車の割合は、男性65.8%に対して、女性18.6%である。前回調査に比べると男性は3.1ポイント、女性は5.5ポイントとじわりと増加している。家族等が運転する車は女性32.7%、男性10.9%と圧倒的に女性での割合が高いが、前回調査に比べると女性では11.6ポイント、男性では5ポイント低下している。日本ではモータリゼーション世代がいよいよ高齢期にさしかかりつつあり、その外出手段も変化しそうな兆候がみられる。

アメリカは、自分で運転する車が74.8%あり、他の国に比べると図抜けて高い割合を示す。対照的に、他の国では最も多い外出手段である徒歩が29.4%と極めて少ない。しかも、自分で運転する車を利用するものは男性83.0%、女性68.6%で、他の国に比べると男女差があまりない。アメリカの高齢者の場合は、自動車がまさに足がわりだといえる。

ドイツは徒歩55.4%の次に自分で運転する車53.4%、バス・路面電車37.9%の割合が高い。ドイツでも自動車利用に関しては日本と同様の男女差がある。外出手段が自分で運転する自動車の割合は男性の72.5%、女性の39.7%である。

フランスは、徒歩が70.4%と他の国に比べ最も高い割合を示す。次いで、自分で運転する車57.5%である。男性の76.1%、女性の43.8%が自分で運転する車が外出手段である。(表9-7)

表9-7 外出手段

(%)

		徒歩	自転車	バイク・スクーター	自分で運転する自動車	家族などが運転する自動車	バス・路面電車	電車・地下鉄	タクシー	自分で操作する車いす	介助者が必要な車いす	その他	無回答
日本	全体	46.4	28.1	6.4	40.3	22.7	19.1	15.1	8.4	0.4	0.8	2.0	0.1
	男	39.4	27.7	6.0	65.8	10.9	15.0	13.2	5.2	0.3	0.3	1.3	-
	女	52.4	28.5	6.8	18.6	32.7	22.6	16.7	11.2	0.4	1.3	2.6	0.2
韓国	全体	67.0	6.8	3.4	9.8	22.4	78.6	33.2	22.9	0.2	0.2	0.6	-
	男	63.9	15.6	7.7	21.2	13.8	72.7	40.1	20.3	0.2	-	0.2	-
	女	69.3	0.3	0.3	1.5	28.7	82.9	28.2	24.8	0.2	0.3	0.8	-
アメリカ	全体	29.4	3.8	1.3	74.8	27.5	9.3	3.6	4.5	1.1	1.0	0.5	-
	男	29.5	5.6	2.3	83.0	17.9	10.5	4.0	4.2	1.9	1.2	0.9	-
	女	29.3	2.5	0.5	68.6	34.7	8.4	3.3	4.7	0.5	0.9	0.2	-
ドイツ	全体	55.4	28.3	1.1	53.4	30.6	37.9	15.9	11.9	0.3	0.6	1.5	-
	男	54.9	33.6	2.3	72.5	17.1	27.7	13.8	9.9	0.5	0.5	0.9	-
	女	55.8	24.5	0.2	39.7	40.2	45.2	17.4	13.4	0.2	0.7	1.8	-
フランス	全体	70.4	9.6	1.0	57.5	31.0	25.5	16.2	6.8	0.2	0.4	0.4	0.2
	男	67.2	11.0	2.3	76.1	18.8	18.1	14.4	5.5	0.5	0.2	0.5	-
	女	72.7	8.6	-	43.8	39.9	31.0	17.5	7.7	-	0.5	0.3	0.3

(2) 年齢・健康状態からみた特徴

年齢別に外出手段の特徴をみると、日本の場合は、徒歩、家族等が運転する車、タクシーの割合は高齢層ほど高いという傾向がある。ただし、85歳以上になると徒歩の割合は低下する。反対に、自転車、自分で運転する車、電車・地下鉄の利用は低年齢層ほど割合が高い。バス・路面電車の利用は年齢階層が上がるにつれて多くなるが、85歳以上では低下する。

韓国の場合は、最も多いバス・路面電車の利用は年齢が高くなるほど低下する。電車・地下鉄についても同様である。かわって、高齢層では家族等が運転する車の利用が多い。

アメリカの場合は、自動車が主な外出手段であるが、自分で運転する車利用は年齢層が上がるにしたがって低下し、家族等が運転する車利用が増える。ただし、それでも80才前半で54.3%が、85歳以上でも43.8%が自分で運転する車を外出手段だとしている。

ドイツの場合は、どの年齢層でも過半が徒歩を外出手段としているが、年齢層が低いほど自分で運転する車の利用が多く、年齢層が上がると家族などの運転する車やタクシーの利用が増える。フランスの傾向はドイツにはほぼ類似し、徒歩の割合は各年齢層を通じて7割近くに達しており、韓国と同じ状況にある。(表9-8)

健康状態別に外出手段をみると、健康がよくないほど家族等の運転する車やタクシー利用が増えるという傾向は各国とも共通している。(表9-9)

若くて元気な時は、徒歩の他に自分で車を運転したり、自転車に乗ったり、電車・地下鉄等を利用して外出する。少し年をとり足腰に不安が出てくると、徒歩とバス・路面電車等の家の近くでアクセスできる公共交通の利用が増える。それよりもさらに高齢化し身体機能も衰えてくると、家族等の運転する車やタクシーが主要な外出手段になるというのが、その程度には差があるが、各国に共通する特徴である。

表9-8 年齢別の外出手段

(%)

		徒歩	自転車	バイク・スクーター	自分で運転する自動車	家族などが運転する自動車	バス・路面電車	電車・地下鉄	タクシー	自分で操作する車いす	介助者が必要な車いす	その他	無回答
日本	60-64才	46.8	36.6	6.5	56.5	16.7	17.7	20.4	3.2	-	-	-	-
	65-69才	37.2	33.5	7.9	58.5	16.5	12.8	16.5	3.7	-	-	0.6	-
	70-74才	47.4	31.2	7.5	41.0	19.7	20.8	16.2	4.6	-	0.6	1.2	-
	75-79才	46.8	23.4	7.6	29.7	25.3	22.2	10.1	12.0	0.6	1.9	1.3	-
	80-84才	61.6	18.2	4.0	18.2	32.3	26.3	12.1	21.2	-	-	3.0	-
	85才以上	41.9	8.1	-	3.2	43.5	16.1	9.7	17.7	3.2	4.8	14.5	1.6
韓国	60-64才	64.9	6.2	4.8	22.7	20.6	76.6	35.7	24.7	-	-	0.3	-
	65-69才	69.4	5.9	1.9	6.6	19.7	82.5	34.1	19.7	-	0.6	0.9	-
	70-74才	66.7	8.5	4.2	3.7	25.9	79.9	32.8	26.5	0.5	-	-	-
	75-79才	68.9	9.0	4.1	3.3	20.5	77.9	37.7	21.3	0.8	-	0.8	-
	80-84才	62.5	6.9	1.4	2.8	27.8	70.8	19.4	26.4	-	-	-	-
	85才以上	66.7	-	-	4.2	-	45.8	66.7	12.5	-	-	-	4.2
アメリカ	60-64才	35.7	6.0	2.0	88.0	14.9	10.0	5.2	4.8	2.0	0.8	0.8	-
	65-69才	31.2	7.4	1.0	87.6	15.8	9.9	4.0	2.5	1.0	-	-	-
	70-74才	30.5	2.5	1.5	78.2	24.9	8.6	4.1	4.6	1.0	1.5	0.5	-
	75-79才	27.8	1.2	1.9	64.8	32.7	9.9	1.9	3.1	0.6	-	1.2	-
	80-84才	21.3	-	-	54.3	51.1	7.4	2.1	7.4	-	2.1	1.1	-
	85才以上	17.7	1.0	-	43.8	58.3	8.3	2.1	7.3	1.0	-	1.0	1.0
ドイツ	60-64才	57.2	39.7	2.1	69.7	23.1	27.9	16.6	9.7	0.3	-	0.7	-
	65-69才	56.2	30.0	0.4	60.9	23.2	43.8	19.7	11.2	-	-	0.9	-
	70-74才	55.5	29.8	-	50.3	25.7	42.4	17.8	13.1	-	0.5	2.1	-
	75-79才	52.1	17.1	2.1	41.1	42.5	41.8	9.6	11.0	0.7	1.4	0.7	-
	80-84才	52.5	16.1	0.8	30.5	46.6	39.8	16.9	14.4	0.8	1.7	0.8	-
	85才以上	57.8	6.7	-	22.2	57.8	35.6	2.2	22.2	-	2.2	11.1	-
フランス	60-64才	68.0	14.8	2.0	71.3	18.4	27.5	23.8	6.6	-	-	0.8	-
	65-69才	68.6	12.4	1.3	68.1	23.9	24.3	16.4	5.3	0.4	-	-	0.4
	70-74才	73.2	7.7	-	63.4	30.4	26.3	18.6	3.1	-	-	-	-
	75-79才	75.8	7.7	1.1	47.3	35.7	27.5	14.3	9.9	-	-	-	-
	80-84才	65.7	4.6	-	36.1	47.2	24.1	4.6	7.4	0.9	1.9	1.9	0.9
	85才以上	69.7	1.3	-	21.1	59.2	18.4	6.6	13.2	-	2.6	-	-

表 9-9 健康状態別の外出手段

(%)

		徒歩	自転車	バイク・スクーター	自分で運転する自動車	家族などが運転する自動車	バス・路面電車	電車・地下鉄	タクシー	自分で操作する車いす	介助者が必要な車いす	その他	無回答
日本	健康	45.8	32.5	8.7	44.6	20.3	17.2	16.1	5.7	0.2	-	1.1	-
	病気ではない	49.6	22.2	2.4	36.1	26.2	23.0	13.1	12.3	0.4	0.8	3.6	0.4
	病気がち・寝込んでいる	37.5	10.4	2.1	12.5	31.3	20.8	14.6	18.8	2.1	10.4	4.2	-
韓国	健康	66.4	9.5	3.9	16.8	19.5	75.5	38.4	22.5	0.2	-	-	-
	病気ではない	68.2	6.0	4.0	6.0	23.0	82.1	36.1	19.0	-	-	0.6	-
	病気がち・寝込んでいる	66.4	2.7	1.8	2.2	27.0	79.2	18.6	29.6	0.4	0.9	1.8	-
アメリカ	健康	34.6	5.6	1.8	83.8	16.4	10.2	4.4	3.6	0.2	-	0.3	-
	病気ではない	21.7	1.2	0.6	65.4	39.8	8.0	2.8	5.5	1.8	1.8	0.6	-
	病気がち・寝込んでいる	19.0	-	-	36.5	71.4	7.9	-	7.9	6.3	6.3	1.6	-
ドイツ	健康	61.7	36.2	1.2	68.2	21.7	35.0	16.9	8.9	0.3	-	0.6	-
	病気ではない	54.8	26.8	1.2	50.3	33.1	41.3	16.1	12.3	-	0.4	1.4	-
	病気がち・寝込んでいる	39.5	12.3	-	24.6	44.7	29.8	12.3	19.3	1.8	3.5	4.4	-
フランス	健康	73.9	13.2	1.5	65.9	23.4	27.6	20.1	6.4	-	0.2	0.2	0.2
	病気ではない	68.2	5.9	0.5	52.7	35.4	24.3	12.7	6.2	0.3	0.3	0.8	0.3
	病気がち・寝込んでいる	58.7	3.3	-	27.2	57.6	18.5	7.6	12.0	1.1	2.2	-	-

注) 調査票では回答者の健康状態を4段階で設定しているが、「寝込んでいる」者は少いので「病気がち」と同一カテゴリーにして集計した。

(3) 都市規模からみた特徴

外出手段を都市規模別にみると、日本の場合は、規模の大きな都市では徒歩、自転車の他に、バス・路面電車、電車・地下鉄、タクシーなどの公共交通の利用が多い。自分で運転する車の利用は、13大都市では21.3%、家族等が運転する車利用も15.7%しかない。反対に、小規模な都市では徒歩や公共交通の利用が少なくなり、かわって自分や家族が運転する自動車利用の割合が高い。郡部では自分で運転する車の利用が50.4%、家族等が運転する車が26.0%ある。

韓国の場合は、主な外出手段のほとんどは徒歩、あるいはバス・路面電車であるが、大都市では電車・地下鉄の利用もみられる。

アメリカの場合は、100万人以上の大都市ではバス・路面電車、電車・地下鉄の公共交通の利用が他の地域に比べると多く、徒歩も58.5%ある。小規模な都市ほど、自分で運転する車利用が多い。

ドイツ、フランスの場合も小規模な都市ほど、自分で運転する車利用の割合が高い。両国では、バス・路面電車、電車・地下鉄、タクシーの公共交通の利用は小規模な都市では少ない。(表 9-10)

表 9-10 都市規模別の外出手段

(%)

		徒歩	自転車	バイク・スクーター	自分で運転する自動車	家族などが運転する自動車	バス・路面電車	電車・地下鉄	タクシー	自分で操作する車いす	介助者が必要な車いす	その他	無回答
日本	13大都市	61.4	27.6	4.7	21.3	15.7	37.0	42.5	10.2	-	0.8	1.6	-
	15万人以上	46.8	31.3	5.6	39.5	25.8	24.9	17.6	14.2	-	-	1.3	-
	5~15万人	47.0	37.3	6.6	41.0	17.5	19.3	13.3	5.4	-	1.8	-	-
	5万人未満	47.0	19.7	9.1	39.4	25.8	4.5	1.5	10.6	3.0	1.5	1.5	-
	郡部	38.0	21.6	7.2	50.4	26.0	8.4	3.6	3.6	0.4	0.8	4.4	0.4
韓国	大都市	67.8	5.3	1.7	8.6	20.8	76.6	49.6	24.8	0.2	0.2	0.2	-
	中規模都市	64.6	7.6	3.0	11.0	23.8	79.5	25.5	19.0	-	0.2	0.6	-
	EUP/MYUN	72.8	8.8	10.3	9.6	22.8	81.6	8.8	30.1	0.7	-	1.5	-
アメリカ	100万人以上	58.5	6.1	-	59.8	17.1	47.6	39.0	20.7	-	-	1.2	-
	50~100万人	14.0	2.0	-	86.0	28.0	-	-	2.0	-	-	-	-
	25~50万人	36.2	2.9	2.2	68.8	29.7	13.8	-	2.9	0.7	-	0.7	-
	10~25万人	44.4	2.8	2.8	81.9	25.0	6.9	1.4	6.9	-	-	-	-
	5~10万人	21.1	4.8	1.4	76.2	25.2	4.8	-	4.1	1.4	0.7	0.7	-
	5万人未満	24.7	3.7	1.2	76.3	29.5	4.5	0.6	2.3	1.6	1.8	0.4	-
ドイツ	50万人以上	56.2	30.8	1.8	54.4	28.4	49.1	29.6	15.7	0.6	-	0.6	-
	10~50万人	51.4	26.3	0.9	52.0	29.7	44.0	9.2	11.9	-	1.2	2.4	-
	5~10万人	58.3	28.1	1.4	49.6	36.7	23.0	9.4	11.5	0.7	0.7	1.4	-
	2~5万人	58.9	26.3	-	56.8	34.7	24.2	10.5	9.5	-	-	3.2	-
	5千~2万人	55.1	34.6	-	53.8	33.3	20.5	9.0	1.3	-	1.3	-	-
	2~5千人	60.0	20.0	-	62.5	15.0	15.0	7.5	5.0	-	-	-	-
	2千人未満	83.3	-	-	33.3	66.7	16.7	-	33.3	-	-	-	-
フランス	パリ周辺10万人以上	88.6	8.3	1.5	40.2	34.1	62.9	55.3	25.8	-	1.5	-	-
	10万人以上	73.2	8.7	1.0	52.6	27.2	35.2	14.6	5.6	0.3	-	-	0.3
	2~10万人	66.7	8.8	0.6	66.7	25.8	23.9	13.2	4.4	0.6	-	1.3	-
	2千~2万人	74.6	10.4	1.6	59.6	27.5	9.8	10.9	5.2	-	-	1.0	-
2千人未満	57.1	11.2	0.4	64.5	39.4	8.5	3.9	1.2	-	0.8	-	0.4	

2 外出時に不便な点 (Q42)

(1) 5カ国別の特徴

外出時に特に不便ではないとする割合が最も高いのは、アメリカで70.8%を占める。次いでドイツ65.7%，日本58.0%，フランス55.5%，韓国46.3%の順である。前回調査では、日本のこの値は43.8%で5カ国中最も低い値であったが、今回調査では15ポイントも上昇している。

不便を感じている場合の内容だが、日本の場合は、道路に段差・狭い・滑る15.6%，歩道がない・狭い12.9%，夜間の道路照明不足・暗い12.2%と道路環境に関する問題指摘が相対的に高い割合を示す。ただし、他の国に比べて何か特別に問題が多い点は見当たらない。

韓国の場合は、駅階段・エスカレータ等の不足18.9%，バス・電車のステップが高い16.3%と、公共交通に関する指摘が、他の国に比べて著しく高い。公共交通の利用が多いがゆえに、その分、指摘も多いのであろう。また、道路の横断がしにくいという指摘が17.4%あり、他の国に比べると突出して高い。信号機の設置等が充分ではない可能性がある。

アメリカの場合は夜間の道路照明の不足・暗い11.0%，ドイツの場合はトイレの不足15.9%，ベンチ等の不足13.6%の指摘が多い。フランスの場合は、ベンチ等の不足17.0%，道路の段差・狭い・滑る16.6%の割合が高い。(表9-11)

表9-11 外出時に不便な点

(96)

	道路段差、狭い、滑る	歩道が無い等歩きにくい	道路の横断がしにくい	道路や歩道が混雑している	放置自転車等で歩きにくい	標識案内表示がわかりにくい	夜間の道路照明がくわらい	車両のステップが高く不便	駅に階段が多い	駅の料金表示がみにくい	駐車場、駐輪場が少ない	トイレが少ない、汚い	ベンチや休憩所が少ない	その他	特に不便でない	無回答
日本	15.6	12.9	3.7	2.1	5.2	3.2	12.2	3.2	4.6	1.9	5.3	7.1	9.0	4.6	58.0	-
韓国	17.9	11.2	17.4	11.4	4.2	4.8	12.7	16.3	18.9	5.8	4.9	9.4	11.7	2.3	46.3	-
アメリカ	9.1	7.5	2.3	4.2	1.2	1.2	11.0	2.8	1.8	0.5	4.1	8.4	9.0	1.2	70.8	0.5
ドイツ	7.0	4.2	5.6	3.2	2.6	0.7	8.6	8.3	5.1	7.4	7.0	15.9	13.6	2.1	65.7	0.3
フランス	16.6	9.5	3.0	13.3	3.1	1.6	5.3	7.2	7.0	4.0	12.2	12.9	17.0	0.2	55.5	0.1

(2) 健康状態からみた特徴

健康状態別に外出時に不便な点をみると、各国とも健康状態がよくないほど不便を感じる割合が高くなっている。その内容をみると、日本の場合は、道路、歩道の問題、トイレの不足等について、健康状態がよくないほど問題指摘をする割合が高い。韓国の場合は、健康状態がよくないほど、道路・歩道環境、バスや電車のステップの高さ、トイレや休憩所の不足を指摘する割合が高い。アメリカの場合は、健康状態がよくないほど、道路・歩道環境、夜間の照明の暗さ、トイレや休憩所の不足を指摘する割合が高い。ドイツ、フランスでも同様の傾向がみられ、また、バス・電車のステップの高さを問題指摘する割合も高い。(表9-12)

表9-12 健康状態別の外出時に不便な点

(96)

		道路段差、狭い、滑る	歩道が無い等歩きにくい	道路の横断がしにくい	道路や歩道が混雑している	放置自転車等で歩きにくい	標識案内表示がわかりにくい	夜間の道路照明がくわらい	車両のステップが高く不便	駅に階段が多い	駅の料金表示がみにくい	駐車場、駐輪場が少ない	トイレが少ない、汚い	ベンチや休憩所が少ない	その他	特に不便でない
日本	健康	13.5	12.0	3.3	2.6	4.4	3.3	12.0	1.8	4.1	2.2	5.5	5.5	7.6	4.1	61.6
	病気ではない	18.7	14.7	4.8	1.2	6.7	3.2	14.3	6.0	6.0	1.6	6.0	9.9	11.9	5.2	50.4
	病気がち・寝込んでいる	22.9	14.6	2.1	2.1	6.3	2.1	4.2	4.2	4.2	-	-	10.4	10.4	8.3	56.3
韓国	健康	14.1	7.5	13.2	8.6	2.5	4.8	10.2	8.4	13.0	3.9	3.9	6.4	8.2	1.6	57.3
	病気ではない	16.2	12.8	19.6	11.4	4.0	4.3	12.5	22.4	25.9	6.8	4.8	8.0	12.5	3.1	39.8
	病気がち・寝込んでいる	27.9	15.9	22.1	16.8	8.0	5.8	17.7	22.1	19.5	8.0	7.1	17.7	16.8	2.2	35.0
アメリカ	健康	5.2	5.4	1.6	3.8	0.7	0.7	8.7	1.0	0.8	-	4.1	5.2	5.9	0.2	78.9
	病気ではない	13.5	10.7	3.1	5.2	1.5	1.5	13.1	5.8	3.7	1.5	4.3	11.6	13.1	2.4	60.6
	病気がち・寝込んでいる	23.8	11.1	4.8	3.2	4.8	4.8	22.2	4.8	1.6	-	3.2	22.2	17.5	4.8	46.0
ドイツ	健康	2.4	2.4	2.1	1.8	0.6	0.3	5.6	3.9	2.1	3.9	4.5	7.4	5.9	1.5	81.3
	病気ではない	7.7	4.7	5.6	3.9	2.6	0.7	9.3	9.1	5.4	9.6	8.9	19.6	15.1	1.9	60.6
	病気がち・寝込んでいる	17.5	7.0	15.8	4.4	7.9	1.8	14.0	17.5	12.3	7.0	5.3	22.8	28.9	4.4	45.6
フランス	健康	12.0	7.4	1.5	10.5	2.9	1.3	4.9	3.8	4.7	3.6	13.1	13.8	12.0	0.4	61.3
	病気ではない	19.1	10.9	3.6	15.0	3.1	2.3	5.4	8.5	9.0	4.1	12.1	13.2	20.9	-	50.1
	病気がち・寝込んでいる	33.7	16.3	9.8	22.8	4.3	-	7.6	21.7	12.0	5.4	7.6	6.5	30.4	-	43.5

注) 調査票では回答者の健康状態を4段階で設定しているが、「寝込んでいる」者は少いので「病気がち」と同一カテゴリーにして集計した。

(3) 都市規模からみた特徴

外出時の不便な点を都市規模別にみると、日本の場合、道路や歩道環境の問題指摘は中規模の都市でその指摘がやや多い。これは前回調査でもみられた傾向で、中規模都市での道路、歩道に問題が多いことがわかる。また、13大都市では、自転車や看板で歩きにくい、駅の階段やエレベーター等の不足、トイレ、ベンチの不足を指摘する割合が他に比べて多い。5万人以下の都市では、夜間照明の暗さの指摘が多い。

韓国の場合、大都市では駅の階段やエレベーター等の問題、バス・電車のステップの高さが、多く指摘されている。小都市では、道路・歩道環境、夜間の照明の暗さ、トイレや休憩所の不足を指摘する割合が高い。

アメリカの場合、大都市では道路や歩道が混雑していること、駐車場・駐輪場が少ないことを指摘する割合が高い。

ドイツの場合、大都市ほど問題指摘が多いが、トイレの不足やベンチ等の休憩所の不足を指摘する割合が高い。

フランスの場合、大都市ではベンチ等の休憩所やトイレの不足、道路や歩道の混雑、駅の階段やエレベーター等の問題、バス・電車のステップの高さを指摘する割合が高い。(表 9-13)

表 9-13 都市規模別の外出時に不便な点

(96)

		道路段差、狭い、滑る	歩道が無 い等歩き にくい	道路の横 断がしく い	道路や歩 道が混雑 している	放置自転 車等で歩き にくい	標識案内 表示がわか いにくい	夜間の道 路照明がく らい	車両のス テップが高 く不便	駅に階段 が多い	駅の料金 表示がみ にくい	駐車場、駐 輪場が少 ない	トイレが少 ない、汚い	ベンチや休 憩所が少 ない	その他	特に不便で ない
日本	13大都市	16.5	11.8	4.7	6.3	14.2	5.5	7.1	4.7	10.2	3.1	6.3	11.0	11.0	7.1	50.4
	15万人以上	17.6	15.9	3.0	1.7	6.0	3.0	10.3	3.4	2.6	2.1	7.3	4.7	7.7	3.9	55.8
	5~15万人	21.1	16.9	4.2	2.4	6.0	3.0	12.7	3.6	6.6	1.2	4.2	6.6	8.4	7.2	51.2
	5万人未満	15.2	19.7	1.5	1.5	-	1.5	16.7	3.0	6.1	3.0	4.5	10.6	18.2	1.5	56.1
	都部	9.6	6.4	4.0	0.4	0.8	2.8	15.2	2.0	2.0	1.2	4.0	6.8	7.2	3.2	68.8
韓国	大都市	17.4	9.3	16.7	12.6	4.1	4.5	8.6	24.6	31.5	8.6	3.8	7.2	9.8	1.7	41.3
	中規模都市	13.6	9.7	14.9	9.5	3.9	4.1	10.4	8.2	11.7	2.8	5.0	9.5	11.0	2.2	54.2
	EUP/MYUN	33.8	22.1	27.9	14.0	5.9	8.1	33.1	18.4	4.4	7.4	8.1	16.2	19.9	4.4	34.6
アメリカ	100万人以上	12.2	8.5	2.4	32.9	4.9	1.2	14.6	8.5	9.8	-	18.3	12.2	9.8	1.2	39.0
	50~100万人	6.0	8.0	4.0	8.0	2.0	-	18.0	4.0	-	-	2.0	16.0	10.0	4.0	66.0
	25~50万人	10.9	5.8	4.3	2.2	2.2	2.2	8.0	3.6	3.6	0.7	1.4	8.7	8.0	0.7	76.8
	10~25万人	5.6	2.8	1.4	1.4	1.4	-	9.7	2.8	1.4	-	5.6	9.7	11.1	1.4	68.1
	5~10万人	8.2	9.5	2.7	3.4	1.4	2.0	12.9	1.4	0.7	0.7	6.8	10.9	10.2	-	72.8
5万人未満	9.2	7.8	1.6	0.4	0.2	1.0	10.2	2.0	0.6	0.6	1.8	6.1	8.4	1.4	74.6	
ドイツ	50万人以上	7.7	4.1	5.3	5.0	5.0	0.3	8.9	10.1	6.8	10.4	8.3	19.8	17.5	1.2	64.5
	10~50万人	8.3	4.3	4.9	2.4	1.5	0.6	9.5	7.6	5.2	5.5	6.4	14.1	11.9	3.1	66.4
	5~10万人	3.6	1.4	7.2	0.7	1.4	1.4	6.5	7.9	2.9	8.6	4.3	13.7	13.7	-	65.5
	2~5万人	6.3	5.3	6.3	5.3	1.1	2.1	6.3	7.4	3.2	2.1	10.5	12.6	7.4	5.3	64.2
	5千~2万人	7.7	7.7	6.4	2.6	2.6	-	11.5	7.7	5.1	7.7	7.7	16.7	16.7	-	64.1
	2~5千人	5.0	2.5	5.0	-	-	-	5.0	5.0	2.5	5.0	2.5	15.0	5.0	2.5	77.5
	2千人未満	-	16.7	-	-	-	-	16.7	-	-	-	16.7	-	-	-	16.7
フランス	パリ周辺10万人以上	19.7	9.8	6.8	19.7	6.8	1.5	3.8	11.4	15.9	10.6	12.9	15.9	21.2	-	52.3
	10万人以上	20.2	9.4	3.8	15.7	4.2	2.8	6.6	12.5	9.8	4.2	14.6	13.2	23.7	-	51.9
	2~10万人	14.5	10.1	1.9	15.1	1.9	0.6	6.3	5.7	6.3	3.1	14.5	20.8	21.4	0.6	46.5
	2千~2万人	19.2	9.8	1.0	13.5	2.6	1.6	4.1	3.6	5.7	3.6	11.9	9.8	14.0	0.5	50.8
	2千人未満	10.4	8.9	2.3	6.2	1.2	0.8	5.0	2.7	0.8	1.2	8.1	8.5	6.9	-	70.3

VI 身体機能が低下した場合の居住

1 身体機能が低下した場合の現住宅での住みやすさ (Q39)

(1) 5カ国別の特徴

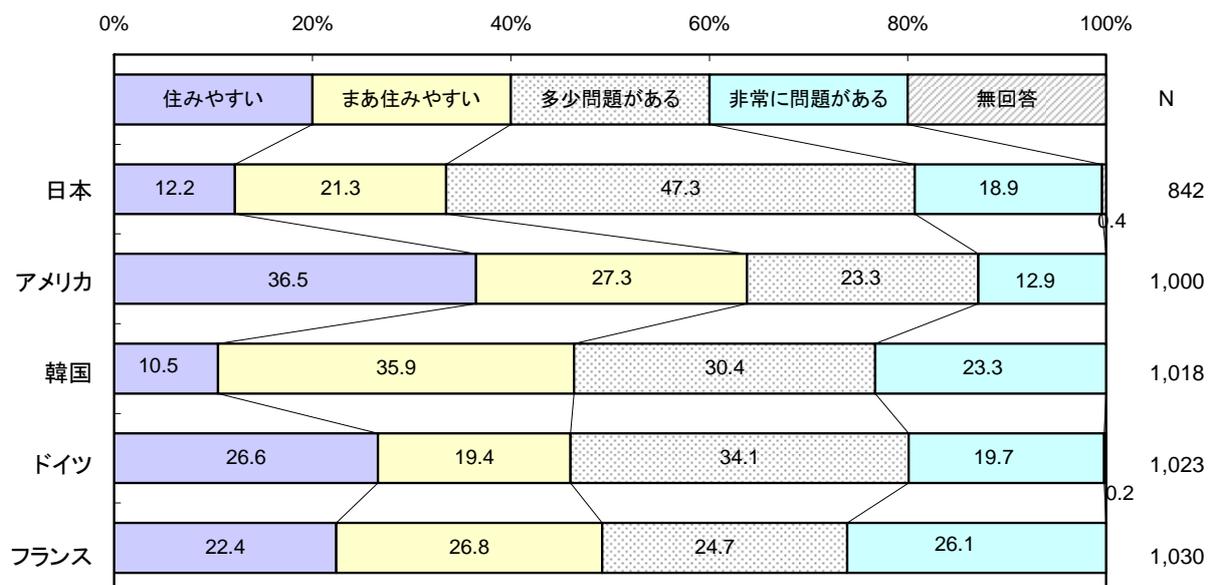
身体機能が低下しても現住宅は住みやすいとする割合が最も高かったのはアメリカで37.9%を占

める。まあ住みやすい 26.5%を合わせると 64.4%に達する。3分の2の高齢者は問題がないという結果である。ただし、問題があるとする割合（「多少問題がある」と「非常に問題がある」とを合わせた値）は、第3回以降、18.8%→21.5%→36.1%と経年的には上昇しており、今回は前回調査とほぼ同じ結果であった。

次いで、「住みやすい」の割合が高いのはドイツで 26.6%である。しかし、前回調査に比べると非常に問題があるとする割合が 10.9%→19.7%と著しく増えている。フランスでは、「住みやすい」22.4%、「まあ住みやすい」26.8%と、「多少問題がある」24.7%、「非常に問題がある」26.1%と、住みやすいと問題ありが拮抗している。また、「非常に問題がある」の割合は、5か国中最も高い値である。

日本、韓国は、「住みやすい」とする割合がいずれも1割強で、欧米3カ国に比べると極端に低い。また、日本の場合は、「多少問題がある」が 47.3%も占め、特徴的である。これに「非常に問題がある」18.9%を加えると 66.2%が何らかの問題があるものになり、この値は、韓国の 53.7%に比べても高く、前回調査同様、5か国中最も悪い結果となっている。ただし、経年的な変化をみると、69.6%→71.0%→75.9%→66.2%と今回調査で初めて低下した。（図 9-12）

図 9-12 身体機能が低下した場合の現住宅での住みやすさ



(2) 年齢・健康状態からみた特徴

年齢別に、身体機能が低下した場合に現在の住宅が住みやすいかどうかを尋ねた結果をみると、日本では、低い年齢層ほど「多少問題がある」、「非常に問題がある」と答えた割合が高い。60才代前半で問題がないとするものは24.7%にしかすぎない。85歳以上になると、問題がない割合が過半を越えるが、これは、それまでの間に問題が克服されたということであろうか。アメリカの場合も、日本ほど顕著ではないが、年齢階層が高いほど住みやすいとする割合が高くなる傾向がある。その他の韓国、ドイツ、フランスでは、日本のような年齢によるはっきりとした傾向の違いはみられない。(図9-13)

健康状態別にみると、日本、韓国、フランスでは、健康状態がよくないほど、「非常に問題がある」と答えた割合が高くなる傾向がある。これに対し、アメリカ、ドイツでは、そうした傾向は特にみられない。(図9-14)

図9-13 年齢別の身体機能が低下した場合の現住宅での住みやすさ

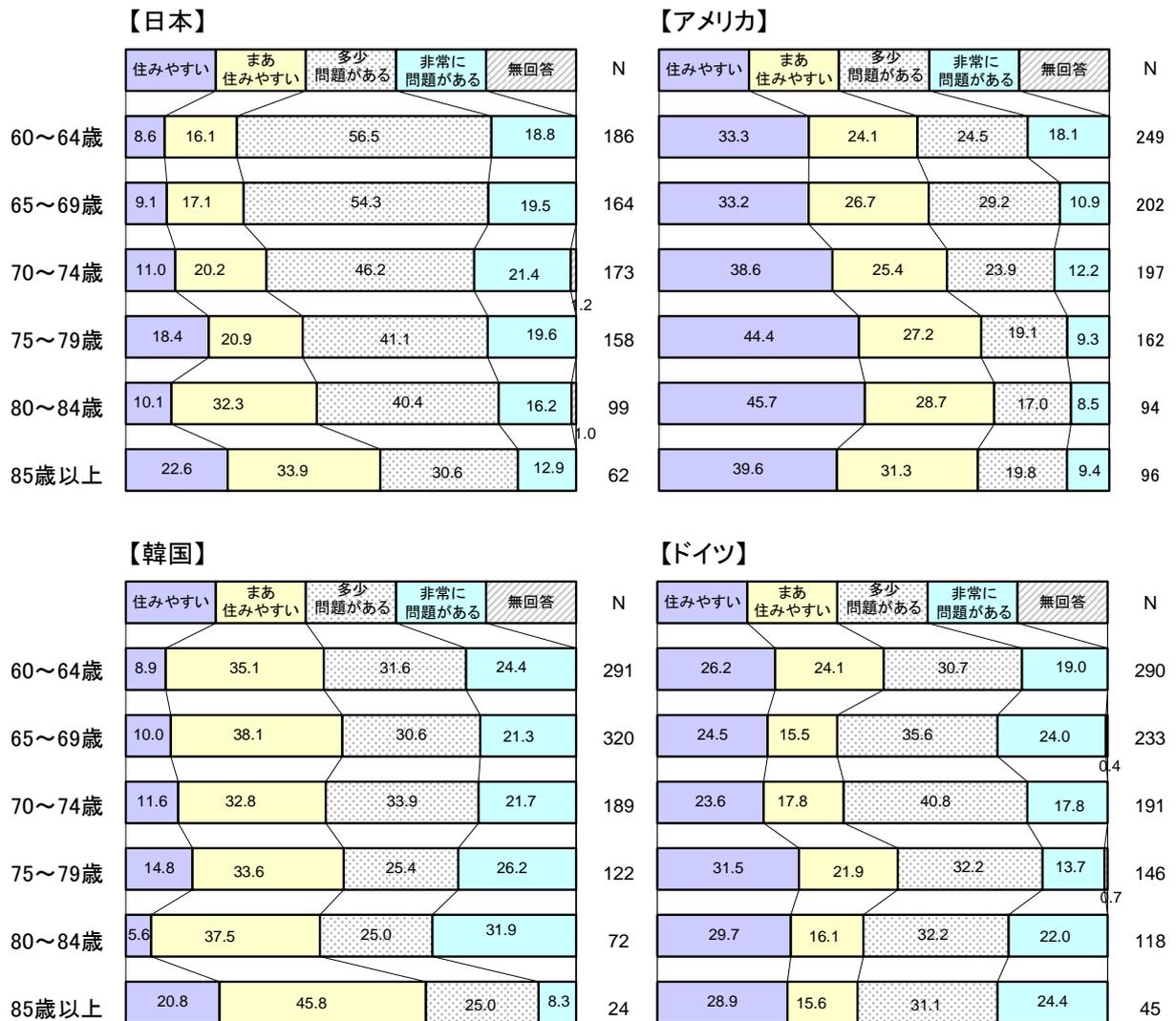


図 9-14 健康状態別の身体機能が低下した場合の現住宅での住みやすさ

【日本】					【アメリカ】							
	住みやすい	まあ住みやすい	多少問題がある	非常に問題がある	無回答	N	住みやすい	まあ住みやすい	多少問題がある	非常に問題がある	無回答	N
健康	13.1	20.8	48.7		17.0	542	37	25.9	24.6	12.5	610	
病気ではない	11.9	21.0	46.4		20.2	252	38.5	26	22.3	13.1	327	
病気がち・寝込んでいる	4.2	27.1	35.4		33.3	48	42.9	34.9	15.9	6.3	63	
【韓国】					【ドイツ】							
	住みやすい	まあ住みやすい	多少問題がある	非常に問題がある	無回答	N	住みやすい	まあ住みやすい	多少問題がある	非常に問題がある	無回答	N
健康	12	39.3	28.2		20.5	440	29.1	19	32.6	19	337	
病気ではない	9.9	34.9	31.3		23.9	352	25.6	19.1	34.3	20.7	571	
病気がち・寝込んでいる	8.4	30.5	33.2		27.9	226	23.7	21.9	37.7	16.7	114	
【フランス】												
	住みやすい	まあ住みやすい	多少問題がある	非常に問題がある	無回答	N						
健康	24.3	26.1	23.6		26	551						
病気ではない	20.4	28.4	26.1		25.1	387						
病気がち・寝込んでいる	19.6	23.9	25.0		31.5	92						

(3) 住宅の種類からみた特徴

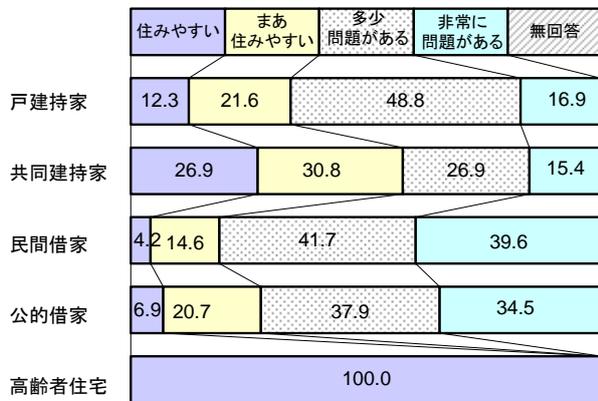
住宅の種類別に、身体機能が低下した場合に現在の住宅が住みやすいかどうかをみる。日本では、賃貸住宅の場合に「非常に問題がある」とする割合が民間 39.6%、公共 34.5%と著しく高い。また、同じ持家でも、戸建では、「多少問題がある」と「非常に問題がある」をあわせると 65.7%も占め、共同建の 42.3%に比べて著しく高い、戸建の方に問題が多いことがわかる。

韓国の場合、日本よりは多少状況が良いようであるが、日本とほぼ同じ傾向を示す。アメリカの場合は、民間賃貸住宅 26.3%で「非常に問題がある」とする割合が著しく高い。高齢者住宅に居住する者は 78.8%が住みやすいとしている。高齢者住宅に居住するものは、ドイツ、フランスでも見られるが、他の住宅種類に比べると住みやすいとする割合が高い。

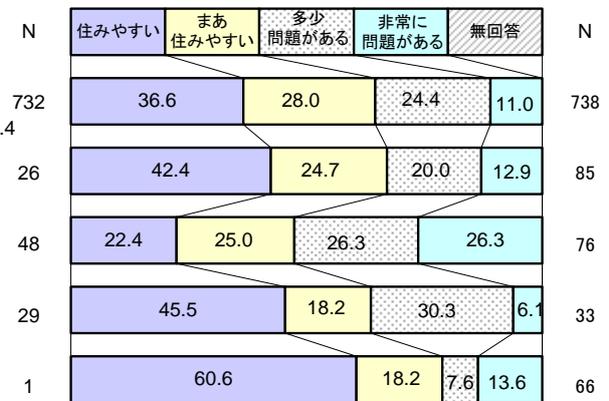
ドイツの場合は、借家で「非常に問題がある」とする割合が、公的借家 31.6%と民間借家 31.0%でともに 3 割を超える。フランスでは、その値がさらに高くなり、民間借家 38.8%、公的借家 35.7%と、日本とほぼ同じ傾向を示す。フランスの場合は、共同建持家で、「非常に問題がある」とする割合が 30.5%を占め、他の国に比べると、著しく高い。(図 9-15)

図 9-15 住宅種類別の身体機能が低下した場合の現住宅での住みやすさ

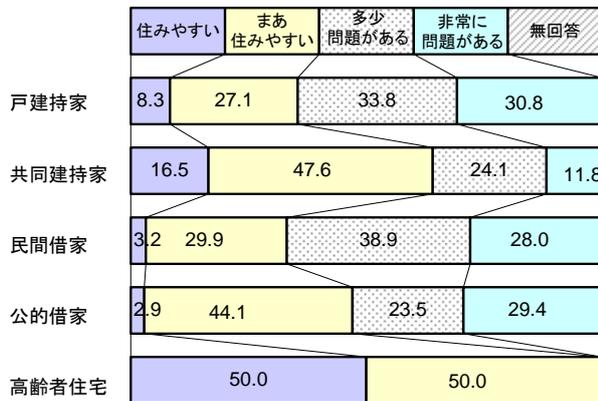
【日本】



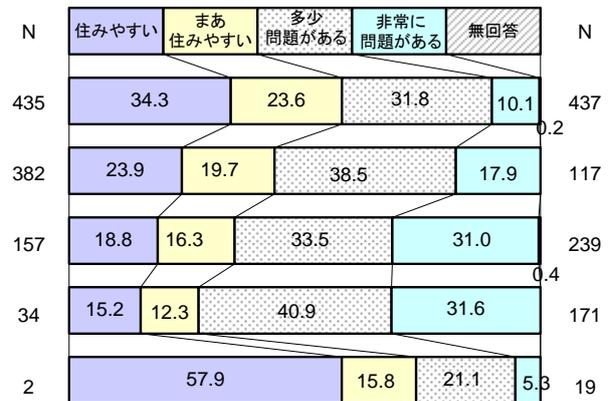
【アメリカ】



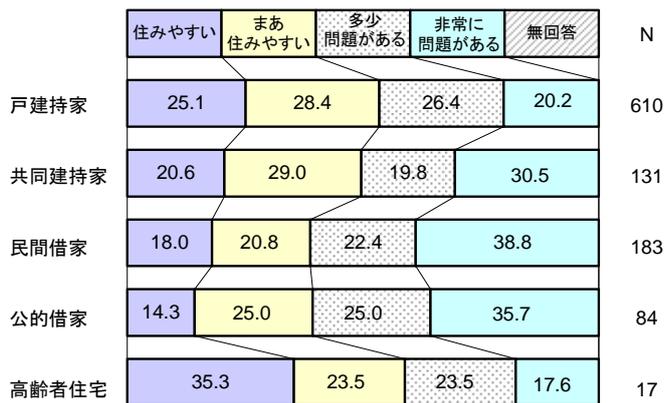
【韓国】



【ドイツ】



【フランス】



2 身体機能が低下した場合の居住場所の希望 (Q40)

(1) 5カ国別の特徴

身体機能が低下した場合の居住場所について、前回調査までは、「自宅に留まりたい」という一つの選択肢を、今回調査では、「現在のまま自宅に留まる」と、「改築の上自宅に留まる」に分けて聞くことにした。

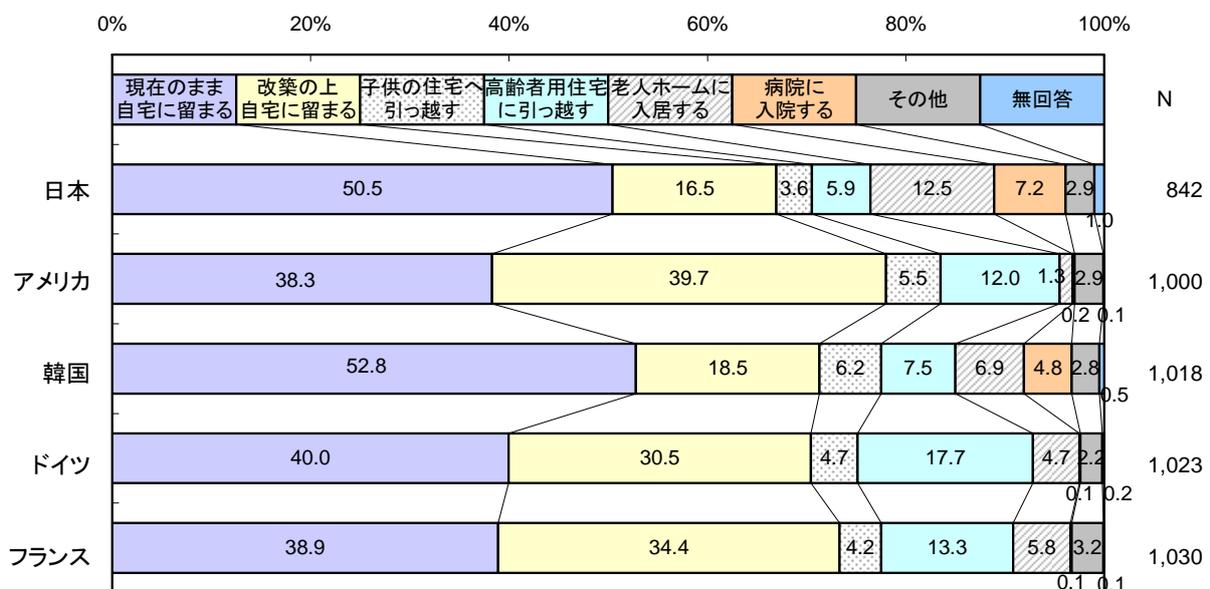
その結果、現在のまま自宅に留まるとの希望が最も高かったのは韓国で 52.8%，次いで日本 50.5%で、いずれも過半を越えた。前回調査で自宅に留まるとの割合が5か国中最も高かったのはアメリカで 71.4%を占めていたが、今回調査では、現在のまま 38.4%，改築の上 38.9%とほぼ2つに分かれた。アメリカの改築意欲は極めて旺盛といえる。また、改築の上自宅に留まるとの割合は、フランス 34.4%，ドイツ 30.5%といずれも3割を超えており、日本、韓国の倍近い割合を示している。

転居する場合には、高齢者住宅を希望する割合がドイツ 17.7%，フランス 13.3%，アメリカ 12.8%と欧米3カ国ではいずれも1割を超え、転居先としては最も高い割合となっている。

ところが、日本の場合は、老人ホームに入居するが 12.5%となっており、他の国に比べて高い値を示している。前回調査で目立っていた入院希望は 14.2%から 7.2%まで低下している。介護保険施行の影響もあって、病院志向は低下したものの、その分が施設志向に回ったような結果である。

また、意外な結果だったのは、子供の住宅へ引っ越すとする割合が、日本が 3.6%と5か国中最も低かったことである。日本では伝統的に子供に頼るのではという考えがこれまで強かったといえるが、意外なほどそうではなくなっているようだ。(図 9-16)

図 9-16 身体機能が低下した場合の居住場所の希望



(2) 年齢からみた特徴

身体機能が低下した場合の居住場所の希望を年齢別にみる。(図 9-17)

日本の場合は 60 歳代前半と 85 歳以上で、自宅に留まりたいとする割合が高く、その中間の年齢層では老人ホームに入居したいという割合が他の年齢層に比べると高い傾向がある。60 歳代後半では 18.9%が老人ホームを希望している。高齢者住宅への希望割合は 60~74 歳まででは 1 割弱程度あるが、それ以上の年齢層ではほとんど希望されていない。その分だけ入院希望が多くなっている。

韓国の場合は、年齢層が低いほど、改築して自宅に留まることを希望する割合が高い。また、70 歳代までは高齢者住宅への入居希望割合が老人ホームへの入居割合を上回るのに対し、80 歳以上では入院希望の割合が高くなる傾向がある。

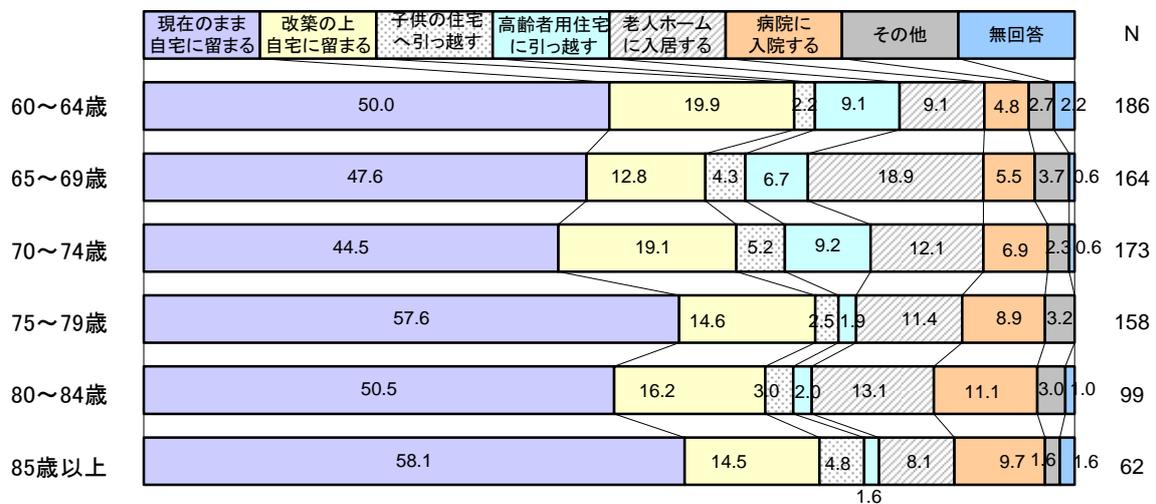
アメリカの場合は、若い年齢層ほど改築して自宅に留まるという希望が多い。ところが、80 歳以上になると高齢者住宅への入居希望が 2 割近くを占めるようになる。

ドイツの場合は、年齢層に関係なく高齢者住宅への入居希望が 2 割弱程度あり、特徴的である。前回調査では高年齢層ほど老人ホームへ入居したいという割合が高かったが、今回調査では、その希望のかなりが高齢者住宅への転居希望に振り替わったといえよう。

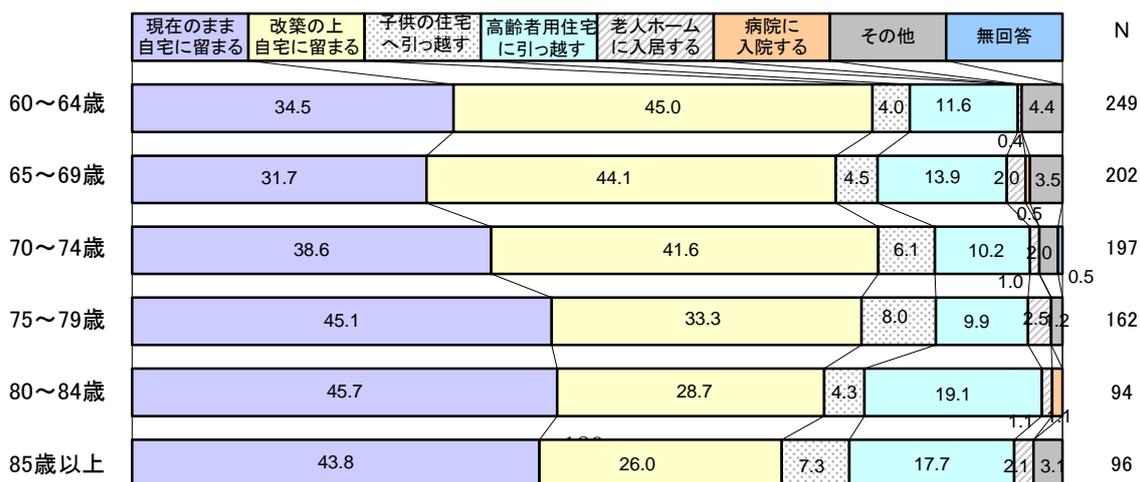
フランスの場合は、年齢層が上がるほど老人ホームへの入居希望が増えるという傾向がある。

図 9-17 年齢別の身体機能が低下した場合の居住場所の希望

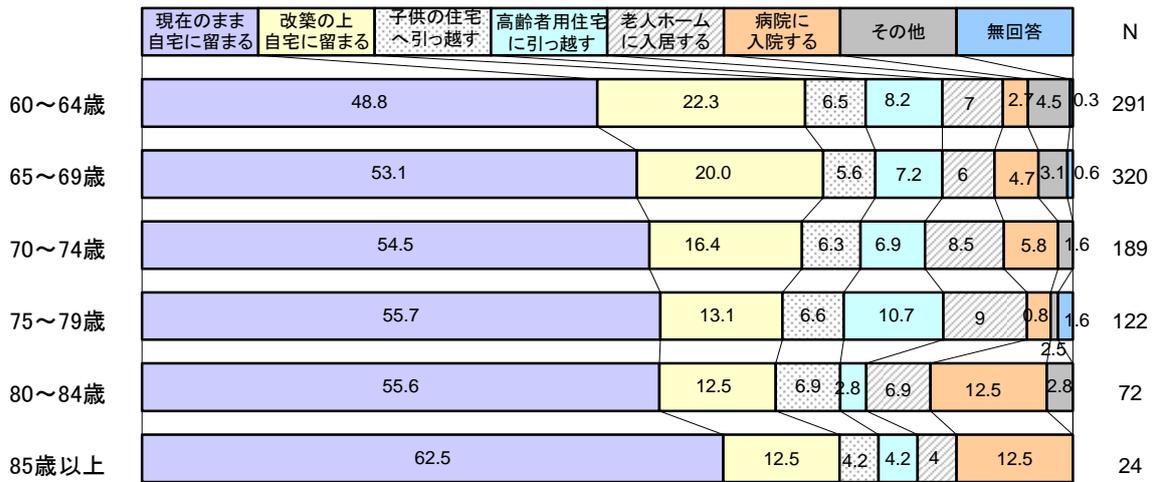
【日本】



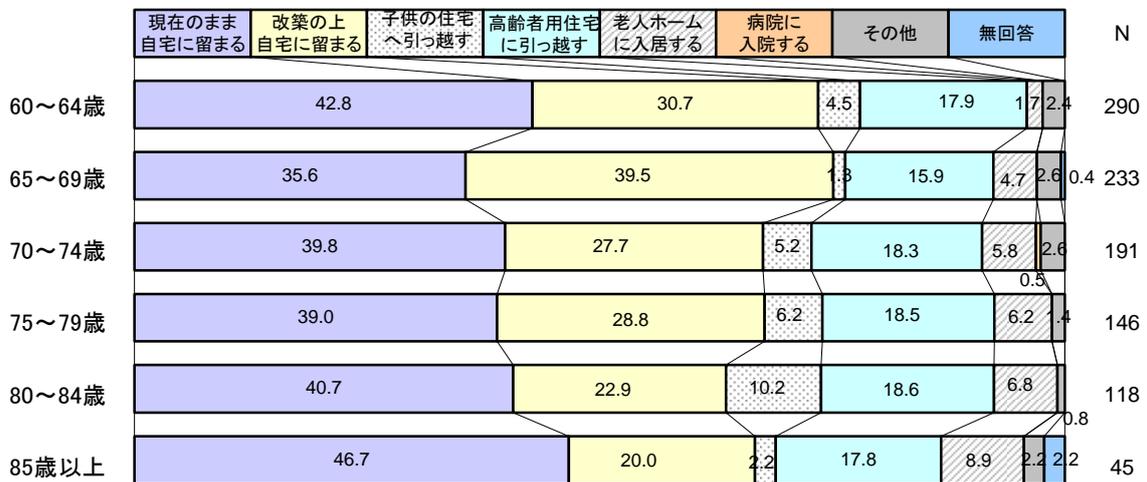
【アメリカ】



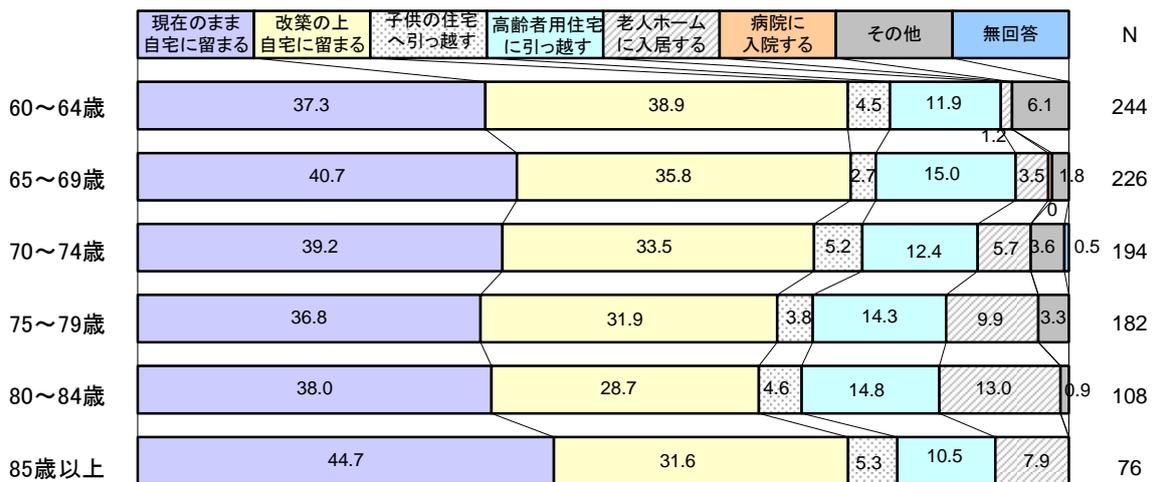
【韓国】



【ドイツ】



【フランス】



(3) 健康状態からみた特徴

身体機能が低下した場合の居住場所の希望を健康状態別に希望をみる。日本では健康状態がよくないほど転居希望が増える傾向があるが、転居先としては、老人ホームの希望が相対的にみて多い。

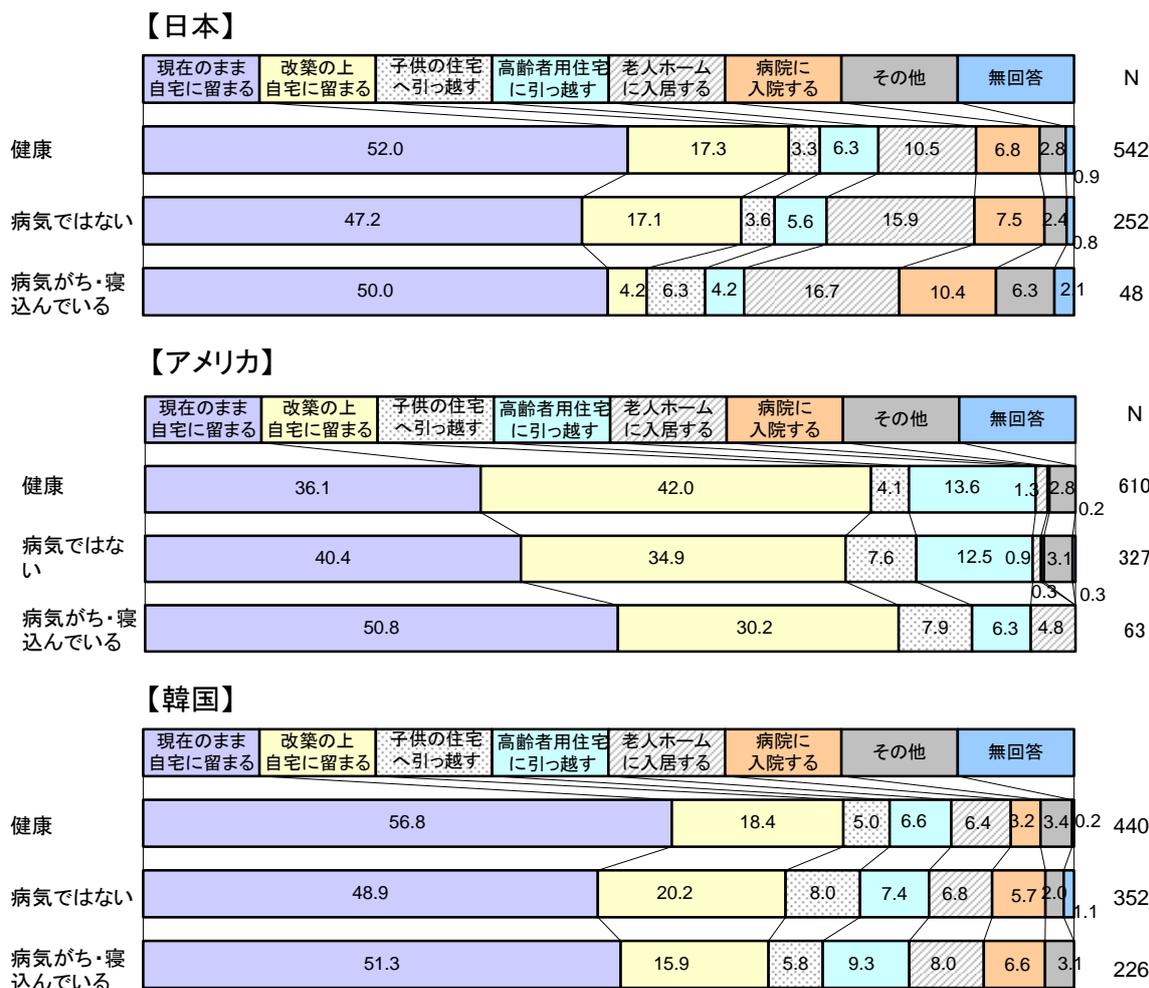
韓国の場合も、健康でない人ほど自宅に留まりたい希望が少なくなり、高齢者住宅や老人ホームへの入居希望が増える。

アメリカの場合は、健康状態に関係なく自宅に留まることを希望する割合がもっとも高いが、意外なことに、健康を損ねた人ほど子供の住宅への転居を希望する割合が増える傾向が見られる。この傾向は前回調査でも確認されたが、子供の住宅への転居希望が日本の高齢者のそれよりもかなり高いことは注目したい。

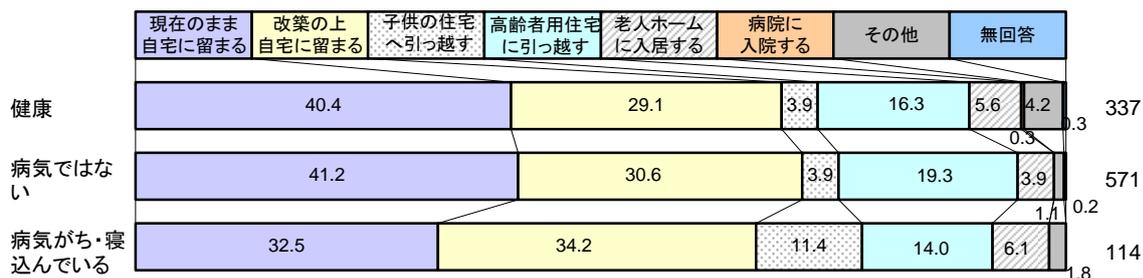
ドイツの場合も、健康を損ねた人の場合に子供の住宅への転居強希望が増える傾向がある。前回調査でみられたような、健康を損ねるほど老人ホームへの転居を希望する割合が高くなる傾向が今回調査では全くみられなかった。

フランスの場合は、健康を損ねた人ほど自宅に留まりたい希望が少なくなり、病気がちの人の場合は高齢者住宅や老人ホームへの入居を希望する割合が高くなる。(図9-18)

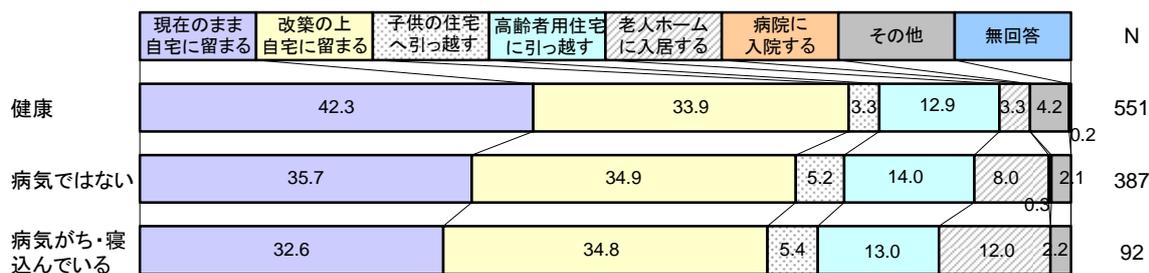
図9-18 健康状態別の身体機能が低下した場合の居住場所の希望



【ドイツ】



【フランス】



(4) 住宅の種類からみた特徴

住宅の種類別に身体機能が低下した場合の居住場所の希望をみると、国別および住宅種類による違いが大きい。(図 9-19)

日本では戸建持家の 53.8%が現在のまま自宅に留まるとしており、改築の上留まるが 18.2%で他の住宅種類に比べると高い割合を示す。ところが、同じ持家でも共同建の場合は、現在のまま 38.5%、改築の上 11.5%と、自宅に留まるとする割合は戸建に比べると極端に少なくなり、高齢者住宅 19.2%、老人ホーム 15.4%の希望が多くなる。高齢者住宅の認知度は日本ではまだ低いと思われるが、いわゆる分譲マンション居住者の約 2 割がその希望を持っていることは注目される。借家の場合は、自宅に留まるよりも転居希望が大層を占めるようになる。特に、日本の場合は改造が認められることが制度的に難しいためか、改築の上自宅に留まるとする割合は公的借家 6.9%、民間借家 2.1%と極端に低い。アメリカ、ドイツ、フランスではこの値が同種の住宅で 2 割程度以上あり、借家における改築条件が極端に異なっている状況がうかがえる。借家の場合の転居先は、民間借家では高齢者住宅 27.1%、老人ホーム 18.8%、公的借家では老人ホーム 27.6%、高齢者住宅 20.7%と順番が逆になっているが、高齢者住宅の希望割合の高さと、病院にかわって老人ホームの入居希望が前回調査に比べて著しく増えていることが目立つ。

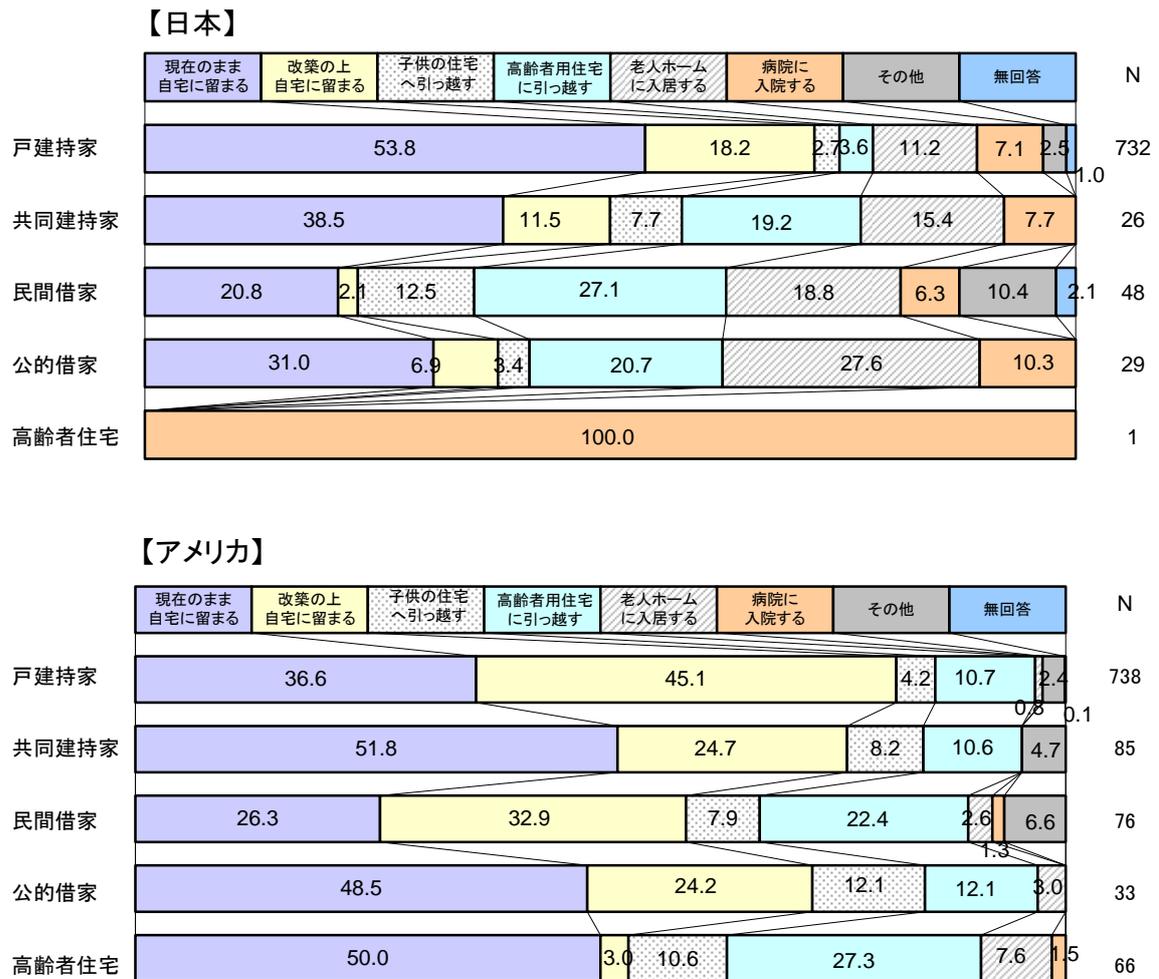
韓国の場合は、借家で転居希望が増えるが、その先は、高齢者住宅、子供の住宅、老人ホーム、病院と分散している。

アメリカの場合は、高齢者住宅を除いては改築の上も含めて自宅に留まるとする割合が高いが、子供の住宅への転居希望が共同建持家 8.2%、公的借家 12.1%、民間借家 7.9%、高齢者住宅 10.6%と意外なほど高い。

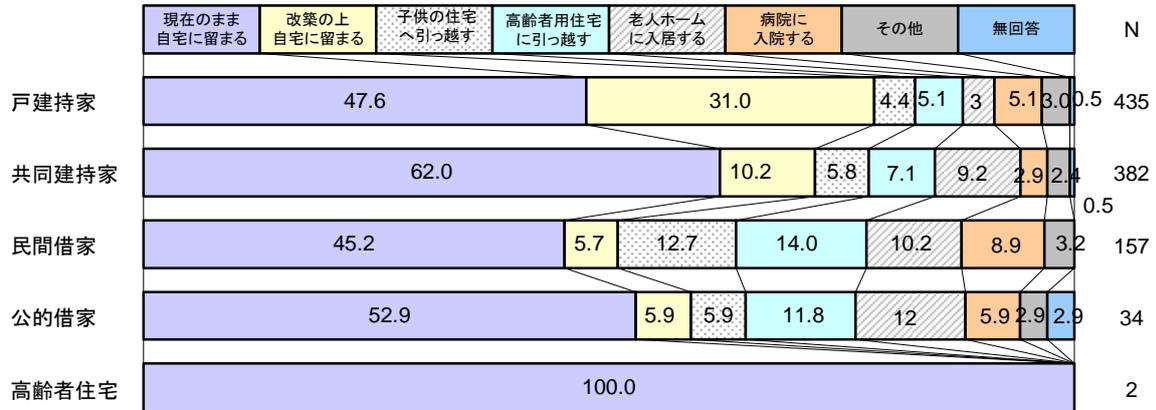
ドイツの場合は、持家に比べ借家で自宅に留まりたいとする割合が低い。転居先については、高齢者住宅を公的借家の 33.9%、民間借家の 26.4%が希望している。フランスもほぼ同様の傾向で、借家居住者の約 4 分の 1 が高齢者住宅への転居を希望している。

アメリカ、ドイツの高齢者住宅に居住する者の場合に、自宅に留まる希望割合が低い。アメリカの場合には高齢者住宅希望 27.3%、ドイツの場合には老人ホーム希望 42.1%が高いのは、身体状況の変化にあわせて居住先を変えることが一般的であるか、あるいはそうせざるをえなくなっているからだろう。

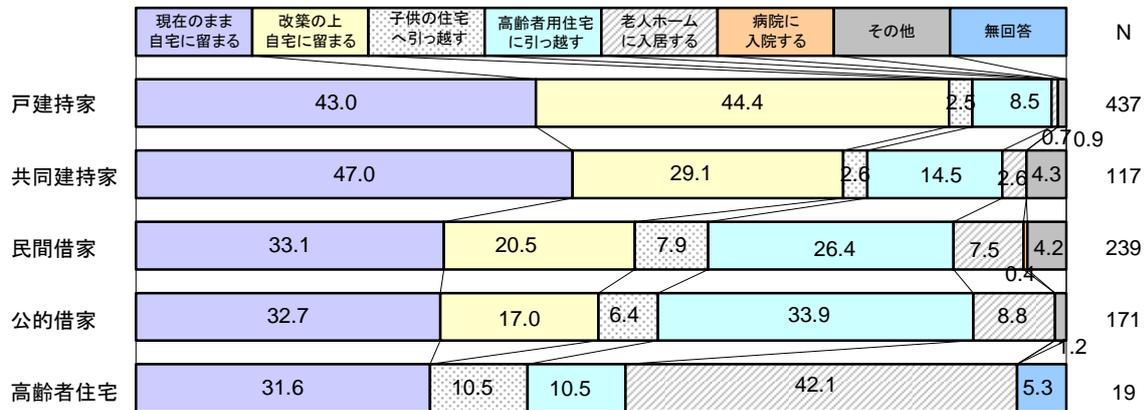
図 9-19 住宅種類別の身体機能が低下した場合の居住場所の希望



【韓国】



【ドイツ】



【フランス】

